

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type-PG • User's Manual

オフィスシリーズ Type-PG

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。

必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、

取り付け可能な装置について説明しています。

添付されているソフトウェアの使用方法や

インストール方法について説明しています。



ご使用前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

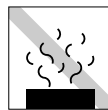
警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや感電・火災の原因となります。



交流100Vの電源以外では使用しないでください。

指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



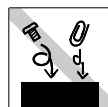
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。

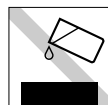
感電・火災の原因となります。



異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

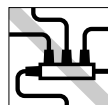
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



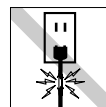
警告

破損した電源コードは、使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・電源コードを加工しない。
- ・無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。
- ・電源コードの上に重いものを載せない。
- ・熱器具の近くに配線しない。

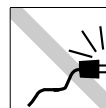
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

感電・火傷の原因となります。



小さなお子様手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。

飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



小さなお子様手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。

口に入れたりすると窒息する危険があります。



マウスボールは、絶対に投げないでください。

マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。



雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。

感電の原因となります。



航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切ってください。

電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。

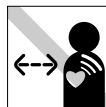
(ワイヤレスLAN機能搭載モデル)



植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部から本製品を22cm以上離して使用してください。

電波により植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

(ワイヤレスLAN機能搭載モデル)

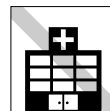


警告

医療機関の屋内では次のことを守ってください。

- ・手術室、集中治療室 (ICU)、冠状動脈疾患監視室 (CCU) には、本機を持ち込まないでください。
- ・病棟内では、本機の電源を切ってください。
- ・ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切ってください。
- ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
- ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。

(ワイヤレスLAN機能搭載モデル)



自宅療養など医療機関以外で、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を使用する場合には、電波の影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。

(ワイヤレスLAN機能搭載モデル)



注意

小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



不安定な場所 (ぐらついた台の上や傾いた所など) に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

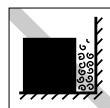


湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。



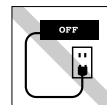
本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は次の点を守ってください。

- ・押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。
- ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

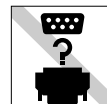


⚠ 注意

連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。



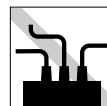
FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- ・構内交換機（PBX）
- ・2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ・ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

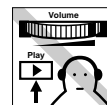


（FAXモデム機能搭載モデル）

本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



ヘッドフォンやスピーカーを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。



長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。



DIMMの増設・交換、リチウム電池の交換、CMOS RAMの初期化などは、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。
火傷や化学物質による被害の原因となります。
万一、液体が皮膚に付着したり、目に入った場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。



本製品の背面には取手が付いていますが、移動する場合は重いので片手で行わないでください。落下してけがをする危険があります。片手で取手を持ち、もう一方の手で本製品を支えて移動を行ってください。





使い始めるまでの準備

本機を使い始めるまでの準備や、電源の入れ方、切り方などについて説明します。

コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクドライブなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

システムの拡張

メモリの増設方法やコンピュータに接続できる装置について説明します。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

付録

お手入れ方法、リチウム電池の交換、CMOS RAMの初期化などについて説明します。

目次

マニュアル中の表記について	(9)
---------------	-----

製品保護上の注意	(12)
----------	------

使用・保管時の注意	(12)
記録メディア	(13)
マウス	(15)

使い始めるまでの準備

ご使用の前に	2
--------	---

コンピュータを使い始めるまでの手順	2
ご使用前の確認事項	3
システムの特長	4
添付されているソフトウェア	5

各部の名称と働き	7
----------	---

前面	7
背面(左側)	8
背面(右側)	9

コンピュータの設置	10
-----------	----

電源の入れ方とWindowsのセットアップ	17
-----------------------	----

Windowsを使用できるようになるまでの作業	17
電源を入れる前に	18
電源の入れ方とWindowsの起動	19
Windowsのセットアップ	20

セットアップ終了後の作業	24
--------------	----

バックアップディスクの作成	24
ネットワークに接続する	26
FAXモデムの設定 (FAXモデム機能搭載モデルのみ)	26
Norton AntiVirus2002 のインストール	26

Windows使用時の確認事項	27
-----------------	----

2回目以降に電源を入れる	27
--------------	----

音量の調節	27
省電力機能	28
デバイスドライバをインストールするときは	28
インタラクティブトレーニング (Windows XPのみ)	28

電源の切り方	29
--------	----

Windows 2000の終了と電源の切り方	29
Windows XPの終了と電源の切り方	30
リセット	31

コンピュータの基本操作

マウスを使う	34
--------	----

マウスの操作	34
マウスの設定変更	34

キーボードを使う	35
----------	----

キーの種類と役割	35
文字を入力するには	36
日本語を入力するには	36
キーロック表示ランプの機能	37
Fnキーと組み合わせて使うキー	38
そのほかのキー	38
キーボードをコンピュータに収納する	39

FDD (フロッピーディスクドライブ) を使う	40
-------------------------	----

FDのセットと取り出し	40
FDのフォーマット	41
データのバックアップ	42
ライトプロテクト(書き込み禁止)	43

HDD (ハードディスクドライブ) を使う	44
-----------------------	----

データのバックアップ	44
購入時のHDD領域について	44

CD-ROMドライブを使う	45
---------------	----

CD-ROMのセットと取り出し	45
-----------------	----

PCカードを使う	48
PCカードのセットと取り外し	49
表示装置を使う	52
LCD画面	52
外付けディスプレイ	53
表示装置の切り換え	53
解像度や表示色を変更する	56
解像度の表示色の変更方法	56
表示できる解像度と表示色	57
サウンド機能を使う	59
各機能について	59
音量を調節するには	60
音を鳴らしたり、録音したりするには ...	60
FAXモデムを使う (FAXモデム機能搭載モデルのみ)	61
お使いになる前に	61
インターネットに接続するには	63
ダイヤルするための準備	66
手でダイヤルアップ接続の設定をする ...	67
回線接続前の設定(Windows XP) ...	71
Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方	73
起動方法	73
終了方法	75
Internet Explorerの使い方	76
Outlook Expressの使い方	77
省電力機能を使う	79
省電力機能の種類	80
実行方法	82
復帰方法	83
ネットワーク機能を使う	84
ネットワークコネクタを使う	84
ワイヤレスLANボードを使う	86

そのほかの機能	91
パラレルコネクタを使う	91
シリアルコネクタを使う	91
USBコネクタを使う	91
IEEE1394コネクタを使う	92
コンピュータウィルスの検索・駆除 ..	93

システムの拡張

DIMMの増設	96
DIMMの仕様	96
作業時の注意	97
背面カバーの取り外し・取り付け ..	98
DIMMの取り付け	101
外付け可能な周辺機器	103

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	106
BIOS Setupユーティリティの操作	107
BIOS Setupユーティリティの起動 ..	107
BIOS Setupユーティリティの操作 ..	108
設定値をもとに戻すには	110
BIOS Setupユーティリティの終了 ..	111
BIOS Setupユーティリティの設定項目	112
Mainメニュー画面	112
Advancedメニュー画面	113
Securityメニュー画面	115
Powerメニュー画面	118
Bootメニュー画面	119
Exitメニュー画面	119
BIOSの設定値	120

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください 122

再インストールが必要な場合	122
重要事項	122

ソフトウェアの再インストールを行う 124

必要なメディア	124
インストールの順番	125
インストール作業における確認事項 ..	125
Windowsのインストール	127
デバイスドライバのインストール ...	132
LCDの設定	134
マウスドライバのインストール	136
Adobe Acrobat Readerのインストール ..	137
Norton AntiVirus2002のインストール ..	137
そのほかの作業	138

こんなときは

困ったときに 142

コンピュータ本体の不具合	142
省電力機能に関する不具合	145
キーボードの不具合	145
マウスの不具合	147
LCDの不具合	148
FDDの不具合	150
HDDの不具合	151
CD-ROMドライブの不具合	152
アプリケーションソフトの不具合 ...	153
メモリの不具合	154
PCカードの不具合	154
プリンタの不具合	155
スピーカの不具合	155
インストール時の不具合	156
FAXモデムの不具合 (FAXモデム機能搭載モデル)..	157

警告メッセージが表示されたら 160

付録

お手入れ 162

本機のお手入れ	162
マウスのお手入れ	162

リチウム電池の交換 164

CMOS RAMの初期化 167

ATコマンドの使用 (FAXモデム機能搭載モデルのみ) 170

FAXモデムボードを取り外すには (FAXモデム機能搭載モデルのみ) 172

機能仕様一覧 174

用語集 176

索引 184

マニュアル中の表記について

本書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくとな利なことを記載しています。



説明文が次ページに続くことを示します。



参照ページを示します。

1 2

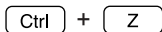
操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



□で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

◀はEnterキーを表します。また、**N**は**N**のことで、このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。



+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。

この例では、**Ctrl**を押したまま**Z**を押します。

名称の表記

本書では、コンピュータに関連する製品の名称を次のように略して表記します。

HDD

ハードディスクドライブ

FD

フロッピーディスク

FDD

フロッピーディスクドライブ

オペレーティングシステムに関する記述

本書では、オペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Professional

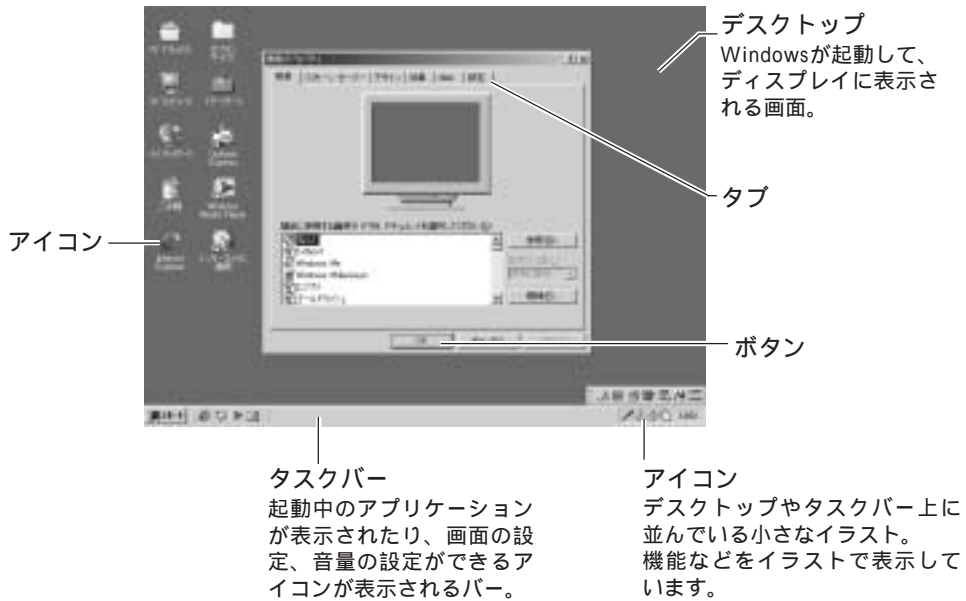
Microsoft® Windows® XP Home Edition

MS-DOS

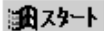

Microsoft® MS-DOS® Operating system

Windowsの画面表示に関する記載方法(Windows 2000)

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタンは、[]で囲んで記載します。

例  : [スタート]  : [OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。

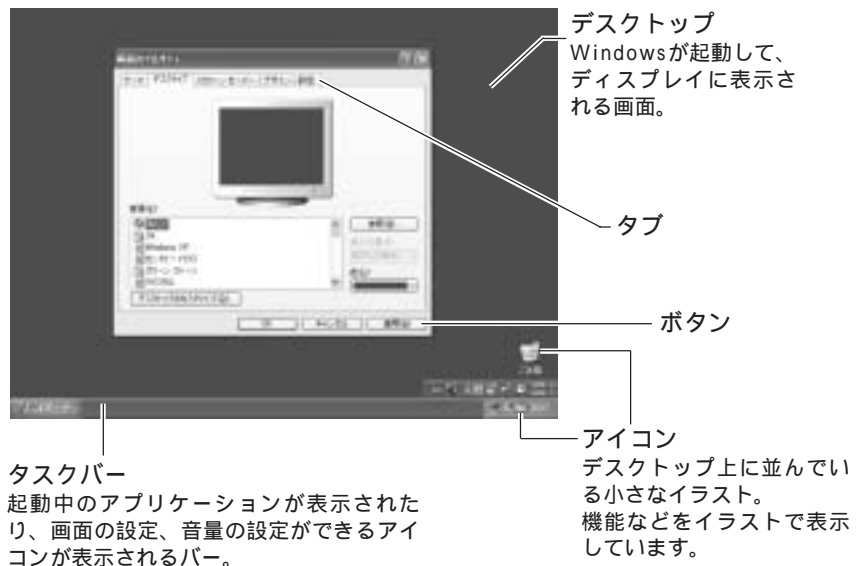
- 実際の操作
- ① [スタート]をクリックします。
 - ② 表示されたメニューから「設定」をクリックします。
 - ③ 横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。





Windowsの画面表示に関する記載方法(Windows XP)

本書では、Windows XP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

マニュアル中で採用している画面は、主にWindows 2000のもです。Windows XPで表示される画面とデザインが異なりますが、基本的な機能は同じです。



ボタンは []で囲んで記載します。

例  : [スタート]  : [OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

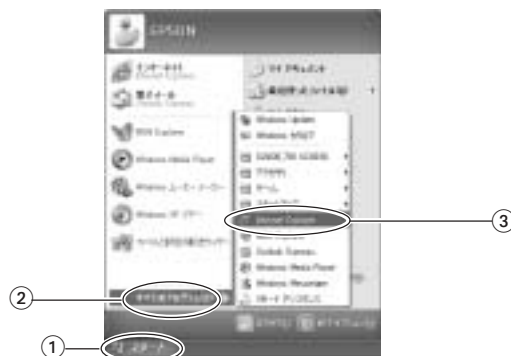
本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Internet Explorer」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

② 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

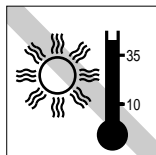
③ 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



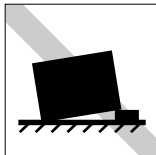
製品保護上の注意

使用・保管時の注意

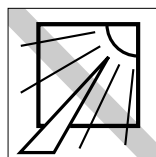
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。



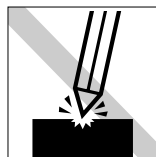
温度が高すぎる所や低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ~ 35 です。



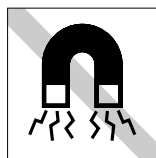
不安定な所には設置しないでください。
落下したり、振動したり、倒れたりすると、コンピュータが壊れ、故障することがあります。



直射日光の当たる所や発熱器具(暖房器具や調理用器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



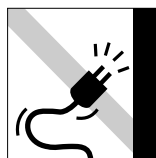
LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。



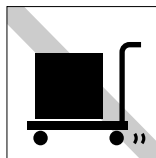
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するもの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



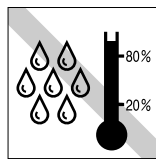
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



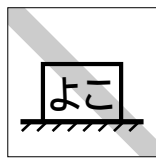
電源コードが抜けやすい所(コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。



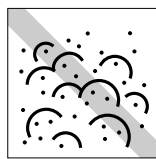
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



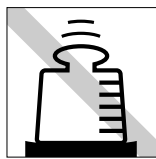
湿度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20% ~ 80%です。



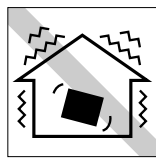
コンピュータ本体を横置きにしないでください。
故障、誤動作の原因になります。
本機は縦置き専用で設計されています。



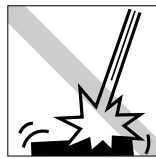
ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



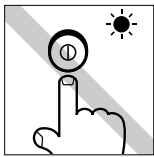
コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。
倒れたり、重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



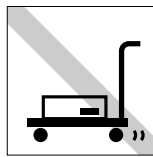
他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



本製品を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。



アクセラランプが点灯中は、コンピュータの電源を切ったり、リセットをしないでください。



輸送や保管をするときは、付属物（FD、CD-ROMなど）をセットしたままにしないでください。また、配線ケーブルはすべて外してください。



コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。

記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

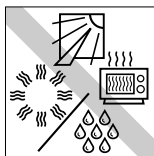
FD

FD

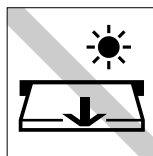
CD-ROM・CD-R・CD-RW・DVD-ROMなど

CD

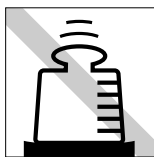
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



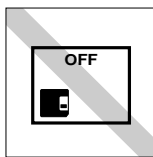
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



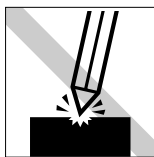
アクセラランプが点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、リセットをしないでください。



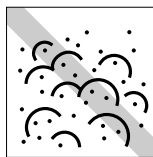
上に物を載せないでください。



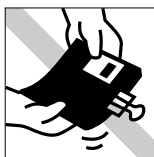
使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



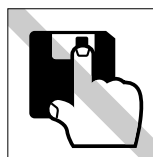
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。



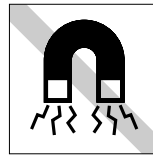
クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



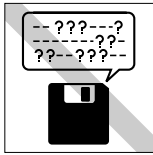
アクセラカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。FD



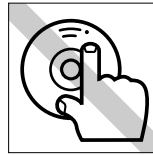
磁性面にホコリや水を付けしないでください。
シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。 **FD**



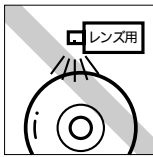
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。 **FD**



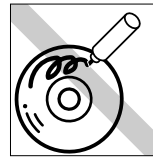
何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。 **FD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。 **CD**



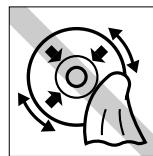
レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。 **CD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。 **CD**



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。 **CD**



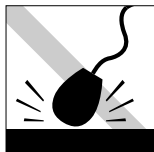
レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。 **CD**



シールを貼らないでください。 **CD**

マウス

マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



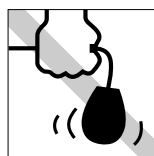
落としたり、ぶつかけたりして強い衝撃を与えないでください。



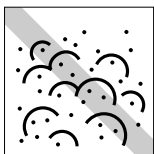
マウスボールを素手で触らないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。



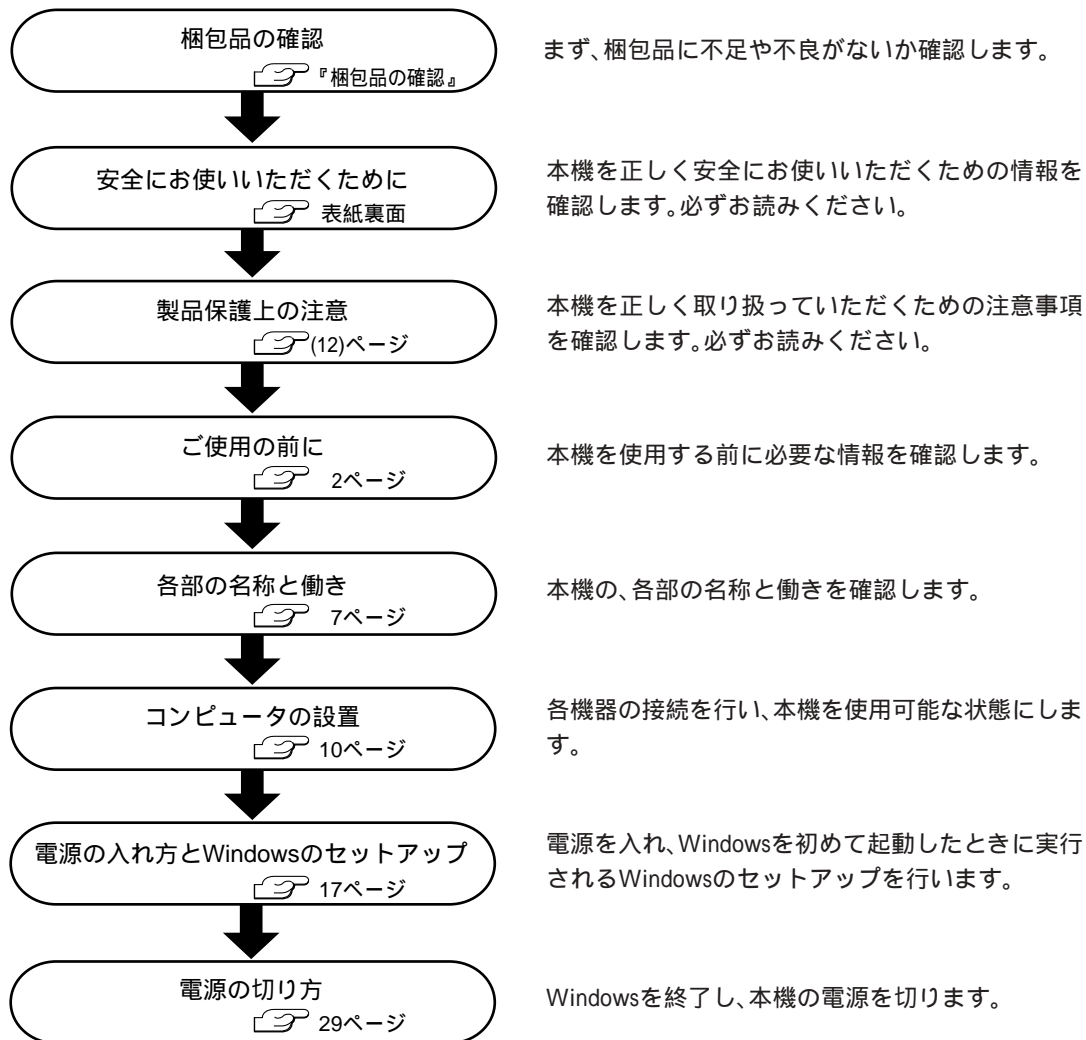
使い始めるまでの準備

本機を使い始めるまでの準備や、電源の入れ方、切り方などについて説明します。

ご使用前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めてコンピュータを使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



ご使用前の確認事項

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは、絶対にはがさないでください。

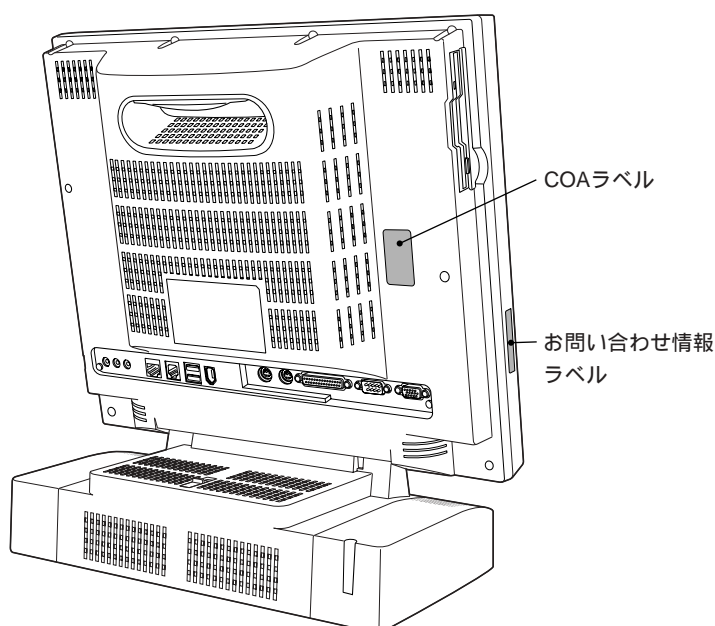
お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製品番号が記載されています。弊社へのサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際に、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

COAラベル

COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。コンピュータからCOAラベルを絶対にはがさないようにしてください。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。

PCカードスロット

PC Card Standard準拠Card Bus対応のPCカードスロットを2本装備しています。

省スペース

ディスプレイ一体型でスリムなうえ、キーボードを収納できるキーボードストレージも装備しています。

表示

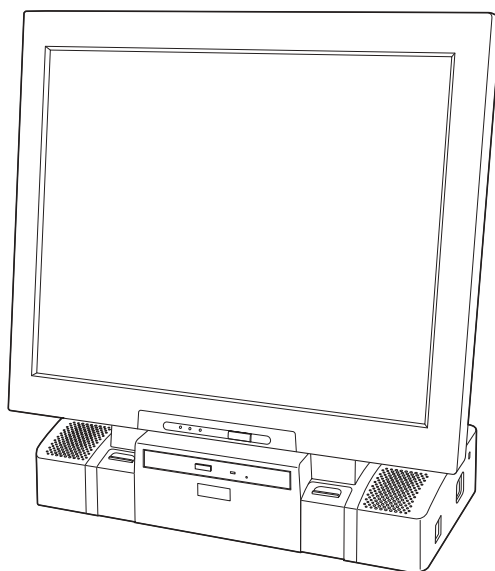
SXGA(1280×1024ドット)の高精細かつ鮮明なワイドビューアングルTFT液晶ディスプレイ(LCD)を一体型で搭載しています。

メモリ容量

DIMMを増設して、最大1GB(512MB×2)まで増設が可能です。

ステレオスピーカ内蔵

ステレオスピーカを内蔵しています。



IEEE1394機能

IEEE1394コネクタ(6ピン)を背面に1個装備しています。(IEEE1394機能搭載モデル)

ワイヤレスLAN

IEEE802.11bに対応したワイヤレスLAN機能を内蔵しています。(ワイヤレスLAN機能搭載モデル)

ネットワーク機能

100BASE-TXに対応したネットワーク機能を内蔵しています。

FAXモデム機能

V.90に対応したFAXモデムを内蔵しています。(FAXモデム機能搭載モデル)

CPU性能

インテルPentium 4プロセッサまたはインテルCeleronプロセッサを搭載しています。

USB

USBコネクタを側面2個、背面2個の計4個装備しています。USB2.0機能搭載モデルでは、4個のコネクタは、USB2.0対応のコネクタになります。

添付されているソフトウェア

本機に標準で添付されているソフトウェアは、次のとおりです。

表中記号の見方



：購入時には、HDDにインストールされています。



：購入時には、インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。



リカバリCDに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
Windows Windowsは、最新のものでインストールされています。		



ドライバCDに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
インテル845Eチップセット用ドライバ メインボード上のデバイスを正常に使用できるようにするドライバです。		
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。		
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。		
ネットワークドライバ ネットワーク機能を使用するためのドライバです。		
FAXモデムドライバ(FAXモデム機能搭載モデル) FAXモデム機能を使用するためのドライバです。		
USB2.0ドライバ(USB2.0機能搭載モデル) USB2.0機能を使用するためのドライバです。		
ワイヤレスLANドライバ(ワイヤレスLAN機能搭載モデル) ワイヤレスLAN機能を使用するためのドライバです。		
Norton AntiVirus2002 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。		
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類をそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。		

マウスドライバCDに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
マウスドライバ マウスを使用するためのドライバです。		

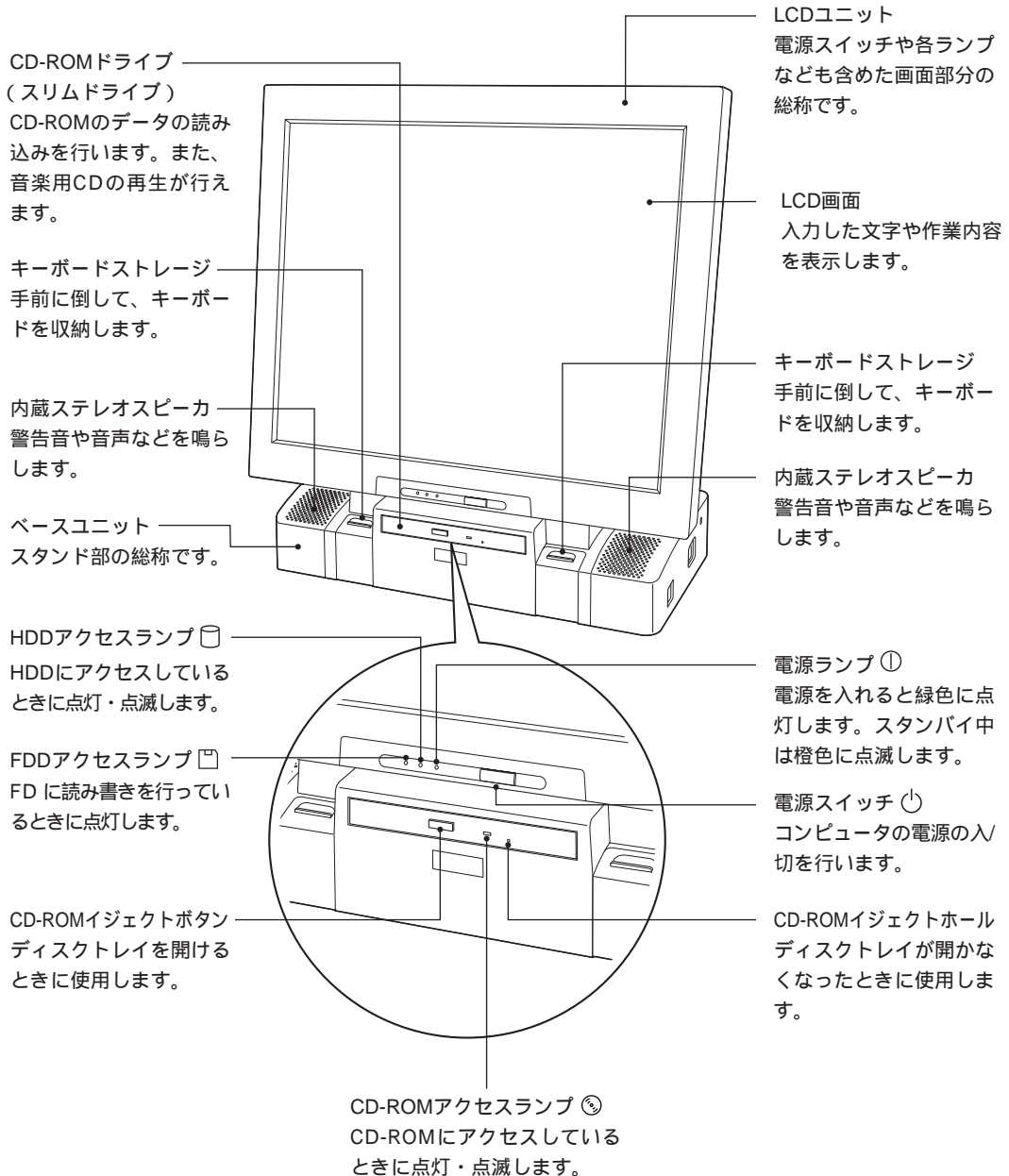
バックアップディスクを作成するソフトウェア*

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
マニュアル(PDFファイル) 「ユーザーズマニュアルファイル(本書)が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。		

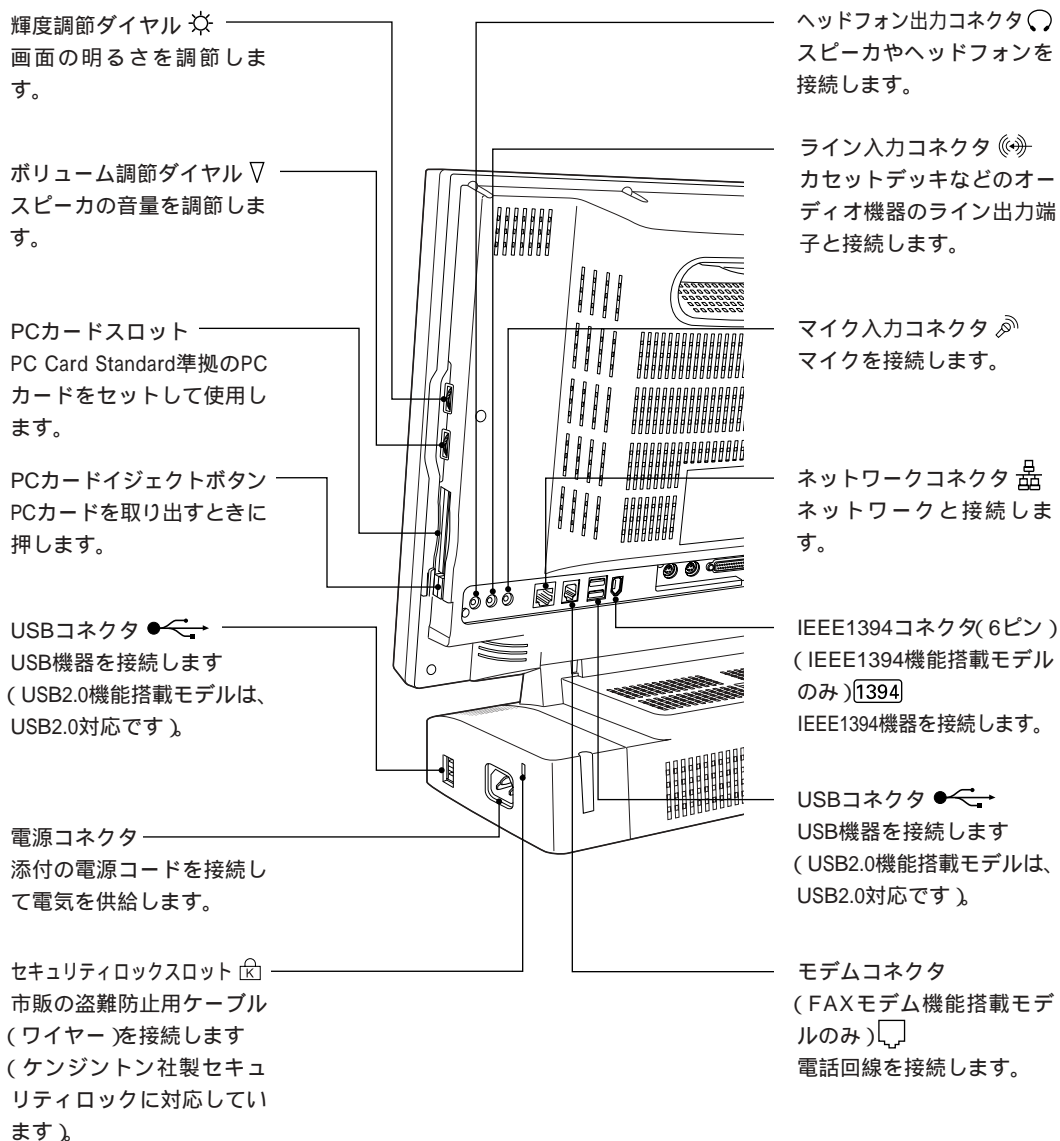
* 購入時のシステム構成によっては、このほかにもバックアップディスクを作成する必要があります。

各部の名称と働き

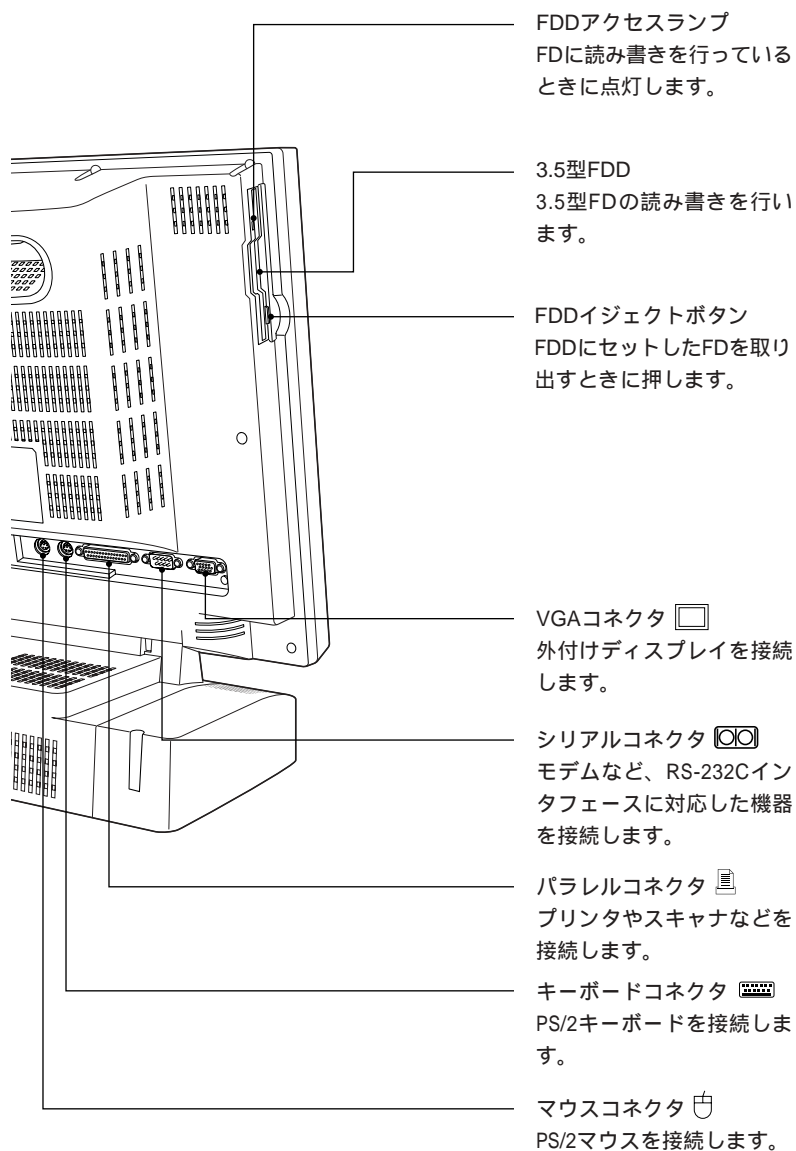
前面



背面(左側)



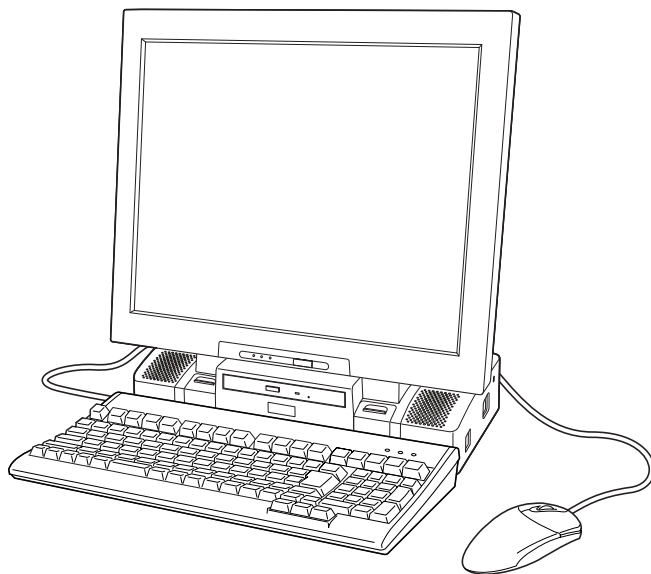
背面(右側)



コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続する手順を説明します。

ここでの説明は、標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ終了後に周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意



注意

- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。
 - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところには設置しない。
 - ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
 - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、p. (12)「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。

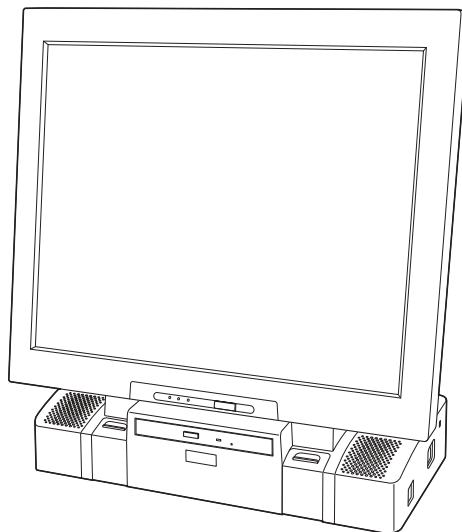


各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設 置

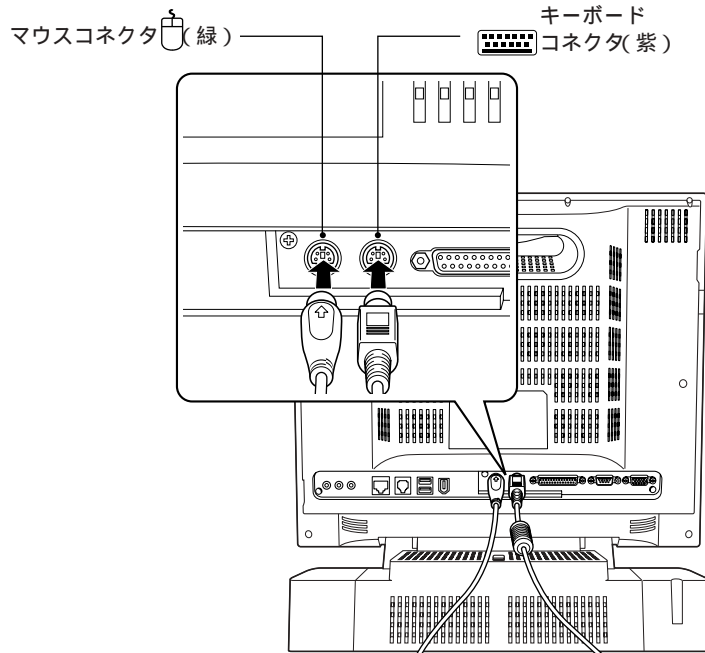
1

本機を丈夫で水平な場所に置きます。



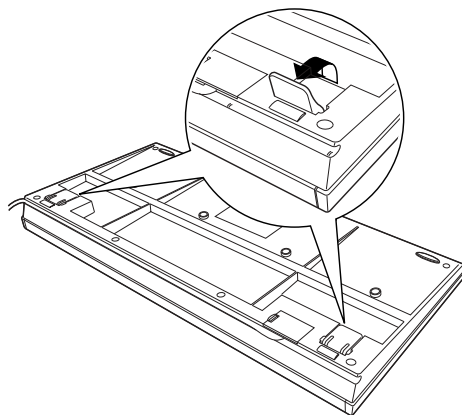
キーボードとマウスの接続

2 キーボードケーブルのコネクタとマウスケーブルのコネクタを下図のとおり、本機の各コネクタに差し込みます。



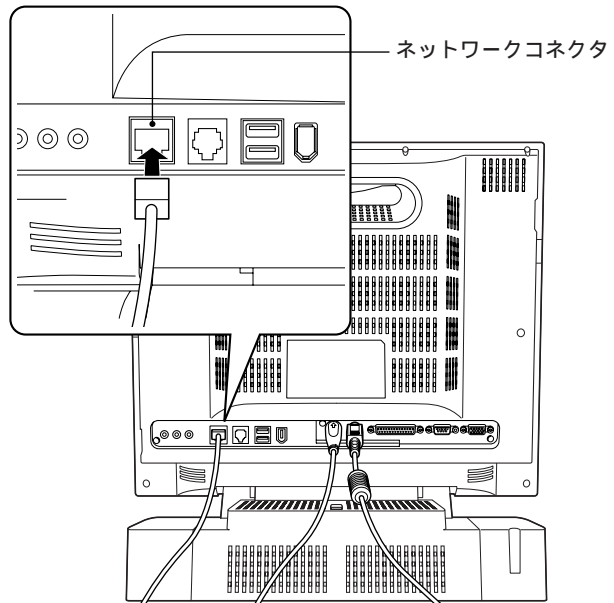
キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは、両端の脚を起こします。
- キーボードケーブルを、左右どちらかの底面の溝から引き出します。



3 ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークケーブルでネットワークと接続します。

ネットワークコネクタをカチッと音がするまで差し込みます。
ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。



電話回線への接続

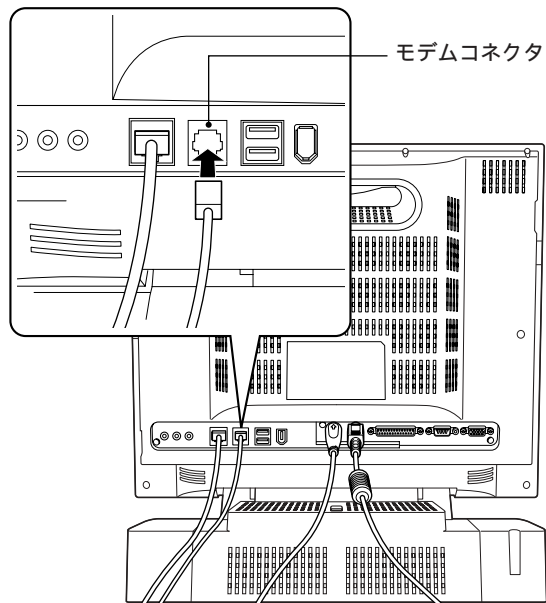


FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- ・ 構内交換機 (PBX)
- ・ 2線式でない回線 (ホームテレホンやビジネスホンなど)
- ・ ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

4 FAXモデム機能搭載モデルの場合は、電話回線への接続を行います。

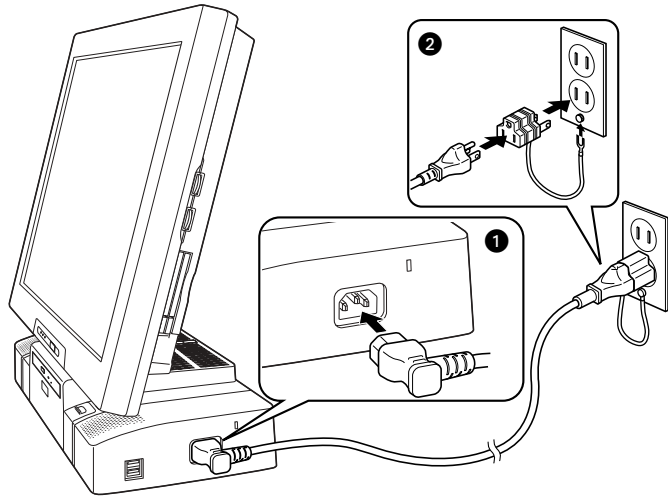
- 付属のモジュラコードをモデムコネクタにカチッと音がするまで差し込みます。
- モジュラコードのもう一端を電話回線に差し込みます。



5

電源コードを接続します。

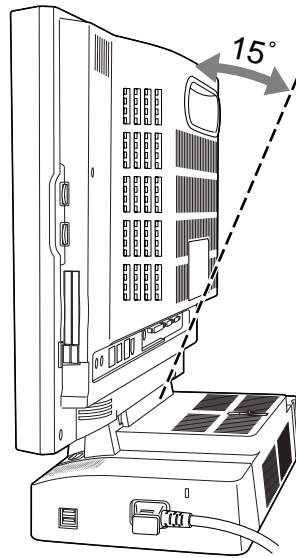
- ① 本機の電源コネクタに電源コードを接続します。
- ② 家庭用電源コンセントに、添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、電源コードを接続します。
アース端子が付いているコンセントの場合、電源コードのアース線を接続します。



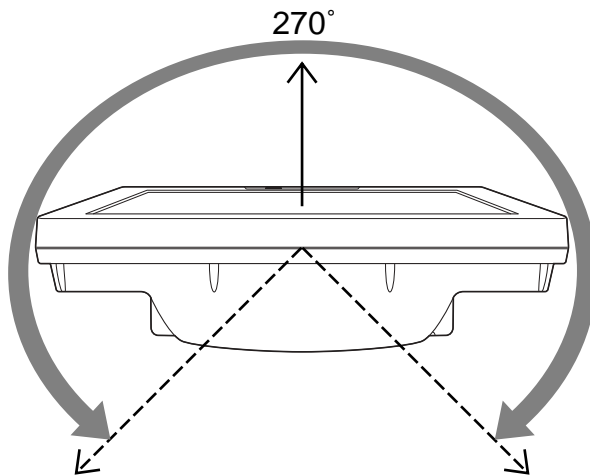
LCDユニットとベースユニットの調節

6 LCDユニットの角度とベースユニットの方向を調節します。

LCDユニットは、15度まで後ろに倒すことができます。角度を調節する際には無理な力をかけないでください。



ベースユニットは、左右に約270度回転させることができます。



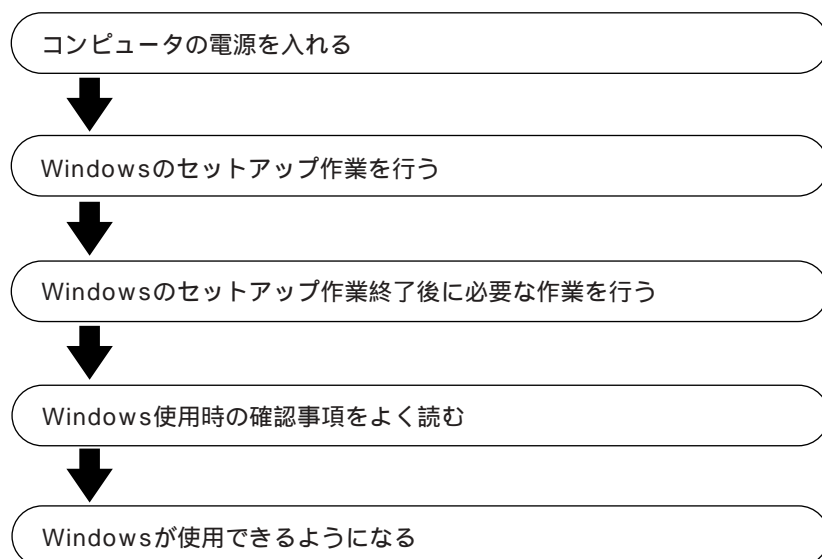
これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、電源の入れ方と購入後に初めて電源を入れたときに行うWindowsのセットアップについて説明します。

Windowsを使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。次ページからの手順に従って作業を行ってください。



電源を入れる前に

Windowsの セットアップ

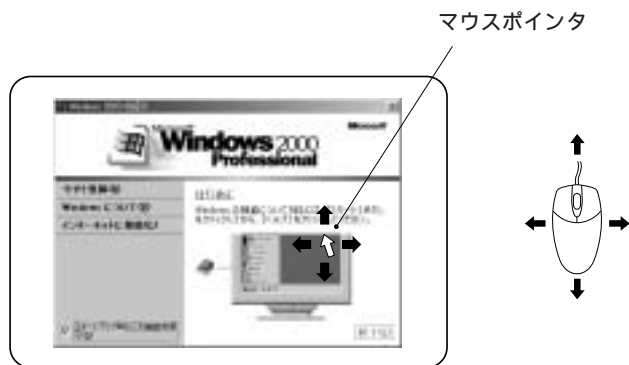
「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスで行います。
セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタもマウスと同じ動きをします。

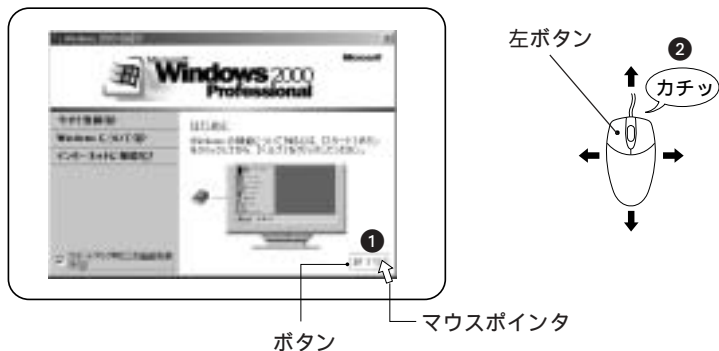


ボタンをクリックする

- ① マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。
- ② マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



音量の調節

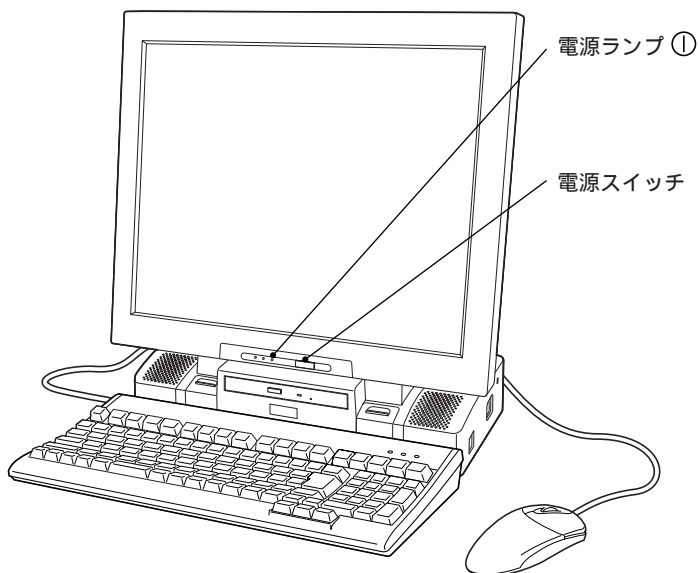
購入時に本体右側面のボリューム調節ダイヤルが最大になっている可能性があります。その場合、セットアップ時に必要以上に大きな音が鳴ってしまいます。セットアップを行う前に、ボリューム調節ダイヤルを小さめに設定してください。

 p.60「音量を調節するには」

電源の入れ方とWindowsの起動


本機の電源の入れ方は、次のとおりです。


- 1 電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。
電源ランプが点灯しない場合は、電源コードが正しく接続されているか確認します。



- 2 画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

続けて「Windowsのセットアップ」を行います。

Windows 2000インストールモデル  p.20

Windows XPインストールモデル  p.22

次の調節をして画面を見やすくします。

角度 : LCDユニットを前後に動かします。

画面の明るさ : 輝度調節ダイヤルで調整します。

Windowsのセットアップ

Windows 2000 インストールモデル

1 Windows 2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows 2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[次へ] をクリックします。

ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。
名前を入力後 [Tab] を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定

↓ 「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

Windows 2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[再起動] をクリックするとコンピュータが再起動します。

- 2 Windows 2000が再起動し、パスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これで「Windows 2000セットアップ」は終了です。



続けてp.24「セットアップ終了後の作業」に移ります。

Windows XPインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

使用許諾契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

コンピュータ名

↓ 「このコンピュータの名前」を入力します。このコンピュータをネットワークに接続して使用する場合は、ネットワーク管理者の指示に従って入力してください。

パスワードの設定

↓ Windows XP Professionalをお使いの場合はパスワードを管理者の指示に従って入力します。

インターネットへの接続

↓ ここでは接続を行いませんので、[省略]をクリックします。

ユーザー登録

↓ ここでは登録を行いませんので、「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択します。

コンピュータを使用するユーザーの指定

↓ このコンピュータを使用するユーザーの名前(最大5ユーザー)を入力します。少なくともユーザー名を1つ入力してください。

インストールの完了

Windows XPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

- 2 Windows XPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。これで「Windows XPセットアップ」は終了です。



セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windows XPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名をクリックすると上記の画面が表示されます。

続けてp.24「セットアップ終了後の作業」に移ります。



ユーザー登録とライセンス認証(アクティベーション)について
セットアップ中にスキップしたユーザー登録を行う場合は、[スタート]
-「ファイル名を指定して実行」-「REGWIZ /R(はスペース)を実行
します。以降は、ウィザード画面の指示に従ってください。
ユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるため
のものではありません。本機のサポートは弊社で行っています。
弊社より提供されたWindows XR(購入時にコンピュータにインストール
されているもの、および「リカバリCD」より再インストールを行ったもの)
は、ライセンス認証を行う必要はありません。

セットアップ終了後の作業

Windows のセットアップが終了したら、次の作業を行います。

バックアップディスクの作成



制限

バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうと、バックアップディスクは作成できません。

バックアップディスクを作成しないと、ドライバやソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。「バックアップFD作成ユーティリティ」では、購入時にHDDにインストールされているも、「ドライバCD」などの添付ディスクに登録されていない、次のようなソフトウェアのバックアップディスクを作成します。

本機ของผู้ザーズマニュアルのPDFファイル

添付のディスク類に登録されているデバイスドライバの最新版

添付のディスク類に登録されていないデバイスドライバ

購入時のシステム構成によって、作成するディスクが異なります。「バックアップFD作成ユーティリティ」画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクを作成するには、フォーマット済みのFDが必要です。

 p.41「FDのフォーマット」

バックアップ ディスクの作成

起動方法

次の方法で、「バックアップFD作成ユーティリティ」を起動します。

Windows 2000 インストールモデルの場合

[スタート] - 「プログラム」 - 「バックアップFD作成ユーティリティ」
を実行します。

Windows XP インストールモデルの場合

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「バックアップFD作成ユーティリティ」
を実行します。

作成方法

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 「バックアップFD作成ユーティリティ」が実行されると、「作成するディスクセットの選択」が表示されます。



- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ] をクリックします。
- 3 画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 手順2、3を繰り返して「作成するディスクセットの選択」画面に表示されるすべてのディスクセットを作成します。
作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。
☞ p.43「ライトプロテクト(書き込み禁止)」



参考

バックアップFD作成ユーティリティで作成したマニュアルディスクについて
マニュアルディスクには、デスクトップ上の「ユーザーズマニュアル.pdf」が登録されています。Windowsを再インストールして、「ユーザーズマニュアル.pdf」をインストールする場合に、このディスクを使用します。

ネットワークに接続する

ネットワークコネクタやワイヤレスLANボード(ワイヤレスLAN機能搭載モデルのみ)などのネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いのネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワーク管理者の指示に従ってください。


 p.84「ネットワーク機能を使う」



本機では、ネットワークコネクタ(有線LAN)とワイヤレスLANボード(無線LAN)を同時に使用した場合の動作について、保証していません。

FAXモデムの設定(FAXモデム機能搭載モデルのみ)

FAXモデム機能を使用してインターネット接続を行う場合は、FAXモデムの設定を行います。

 p.63「インターネットに接続するには」

Norton AntiVirus2002のインストール

購入時には、コンピュータウィルスを検出し駆除するためのソフトウェア「Norton AntiVirus2002」がインストールされていません。「Norton AntiVirus2002」をインストールします。

 『Norton AntiVirus2002をご使用の前に』

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用前に次の事項を確認してください。

Windowsの使用方法は、Windowsに添付の『クイックスタートガイド(ファーストステップガイド)』や、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。

省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうように注意しましょう。

 p.79「省電力機能を使う」

電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。

電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には音量を調節します。

本機の右側面には、音量を調節するためのボリューム調節ダイヤルが装備されています。上に回すと大きく、下に回すと小さくなります。その他の音量調節方法についての詳細は、p.60「音量を調節するには」をご覧ください。

省電力機能

本機では、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合、キーボードやマウスを操作したり、電源スイッチを押すことでもとに戻ります。

 p.79「省電力機能を使う」

電源ランプの表示 コンピュータの動作状態は、電源ランプによって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード、HDD/ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	橙点滅
休止状態、電源切断時	消灯

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD(Windows XPはリカバリCD Disc1)」をセットしてください。

インタラクティブトレーニング(Windows XPのみ)

Windows XPには「ステップバイステップインタラクティブ」がインストールされています。ステップバイステップインタラクティブはWindows XPの使い方を画面上で分かりやすく説明します。

「ステップバイステップインタラクティブ」を実行するには、[スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「Microsoftインタラクティブトレーニング」-「Microsoftインタラクティブトレーニング」をクリックします。

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



電源を切ってもう一度入れ直す場合には、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

HDDやFDDなどのアクセスランプ点灯中にコンピュータの電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。

本機は、電源を切ってもコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

Windows 2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows 2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。
Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 3 接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows XPの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows XPを終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-[終了オプション]をクリックします。
- 2 「コンピュータの電源を切る」画面で[電源を切る]をクリックします。
Windows XPが終了し、自動的に電源が切れます。
- 3 接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows XP 終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している場合に、[終了オプション]-[電源を切る]を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、画面を切り替えて、ログオンしているすべてのユーザーのログオフを行ってください。

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットすると、保存されていないデータはすべて消失します。

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの
リセット方法

Windowsのリセット方法は、次のとおりです。

Windows 2000 : [スタート] - 「シャットダウン」 - 「再起動」を選択

Windows XP : [スタート] - [終了オプション] - [再起動] を選択

リセットできない
ときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

Ctrl + Alt + Delete を押してリセットする



コンピュータがリセットできないときは

コンピュータの電源スイッチを押す



コンピュータの電源が切れないときは

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。



コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクドライブなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

マウスを使う

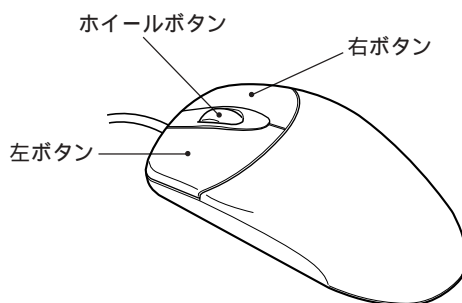
本機に添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。ホイール機能を使用するには、専用の「マウスドライバ」のインストールが必要です。マウスドライバは購入時にインストールされています。

マウスの操作



制限

アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境を変更するときは、デスクトップ右下のタスクバーに表示されている「マウス」アイコンをダブルクリックし、「マウスのプロパティ」で設定変更します。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

文字を入力するには

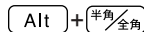
文字キーを押すとキートップ(キーの上面)に印字された文字が入力されます。キートップには、複数の文字が印字されており、入力モードによって入力される文字が異なります。

直接入力モード : キートップのアルファベットをそのまま入力します。

日本語入力モード

- ローマ字入力: キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
- かな入力 : キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え 直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは、次のキー操作で行います。



日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の切り替えは、日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方 MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行います。

<Windows 2000 の場合>








<Windows XP の場合>

- ① 入力モード
入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。
- ② ヘルプ
日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。
- ③ かなキーロック
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態 : ローマ字入力
ボタンが押されている状態 : かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。









キーロック表示ランプの機能

キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割 : 数値キーの状態を切り替え 切り替え :  を押します。 点灯時 : 数値を入力 消灯時 : カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割 : アルファベットの大文字/小文字の切り替え 切り替え :  +  を押します。 点灯時 : 大文字を入力 消灯時 : 小文字を入力
Scroll Lock	役割 : ソフトウェアによって異なります。 切り替え :  を押します。



Fnキーと組み合わせて使うキー

次のキーは、Fnキーと組み合わせて使用することができます。

Fn + 	 (Page Up) の役割をします。
Fn + 	 の役割をします。
Fn + 	 (Page Down) の役割をします。
Fn + 	 の役割をします。

その他のキー

Windowsキー、アプリケーションキーを使うことにより、Windowsをより効率的に使用することができます。

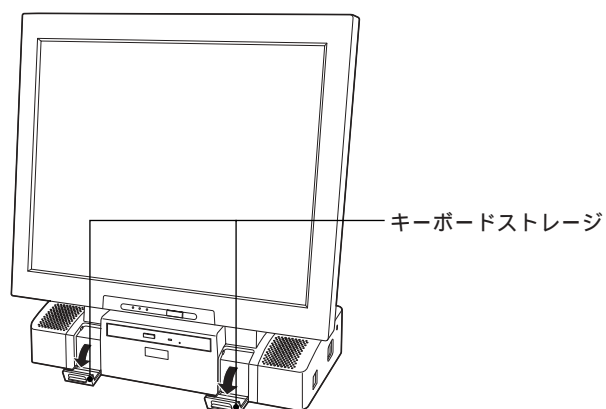
キー名	機能
 (Windowsキー)	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

キーボードをコンピュータに収納する


本機を使用していない間などは、キーボードを本機に収納しておくことで、作業スペースが広がり、設置場所を有効に活用することができます。

キーボードを本機に収納する手順は次のとおりです。

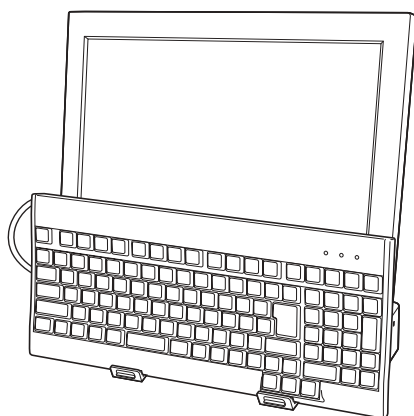
- 1 本機のキーボードストレージ (2個) を手前に倒します。



- 2 キーボードの脚を起こして使用している場合は、本機のLCD画面にキズを付けないようにするために、脚をたたみます。

 p.12「キーボードとマウスの接続」

- 3 キー側を手前に向けて、キーボードストレージにキーボードを立てかけます。



FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

本機の左側面には、FDDが内蔵されています。

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機のFDDでは次のFDを使用できます。

3.5型2HD：1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD：720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

FDのセットと取り出し



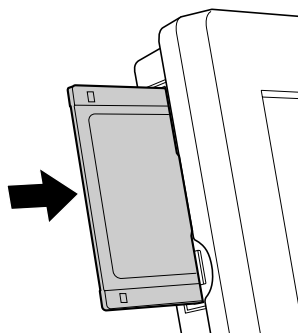
制限

FDDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしたりしないでください。データが破壊されるおそれがあります。

コンピュータの電源を切る場合や再起動する場合は、必ずFDを取り出してください。

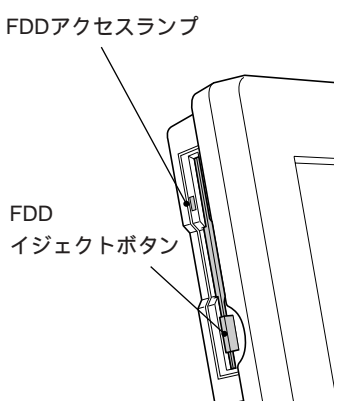
セット方法

- 1 ラベル面を前にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。
- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。



<左側から見た図>

取り出し方法

1	FDDアクセスランプが点灯していないことを確認し、FDDイジェクトボタンを押します。	 <p>FDDアクセスランプ</p> <p>FDD イジェクトボタン</p>
2	FDDが押し出されたら、静かに引き抜きます。	

FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。未フォーマットのFDを使用する場合や、登録されているデータをすべて消去する場合にはフォーマットを行います。
メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。
フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。
Windows XPでは720KBのFDをフォーマットできません。

フォーマット方法 Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。



Windows 2000ではWindowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、下記手順2～5を繰り返してください。

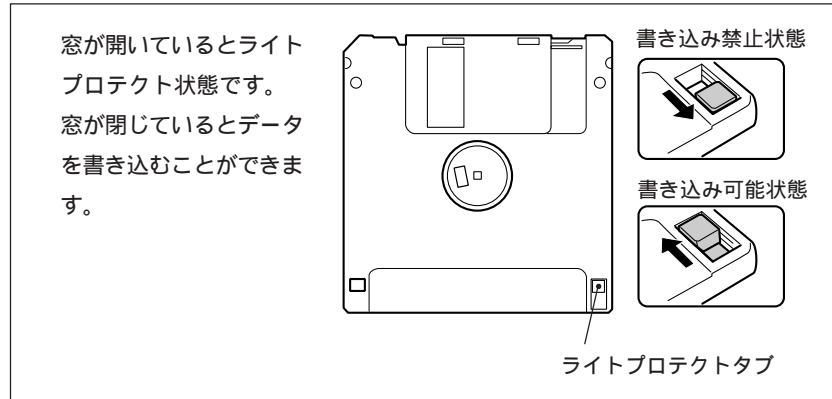
- 1 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。(Windows XPでは「スタート」-「マイコンピュータ」をクリックします。)
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して「開始」をクリックします。「警告」が表示された場合は「OK」をクリックします。
- 4 「フォーマットが完了しました。」と表示されたら、「OK」をクリックします。続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4を繰り返します(Windows XPのみ)。
- 5 「閉じる」をクリックします。

データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複製して使用できるので安心です。

ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトとは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データを書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したFDはライトプロテクトをしておくとう安心です。



HDD(ハードディスクドライブ)を使う

HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

- ・ HDDを分解しないでください。
- ・ HDDアクセスランプ点灯中に、電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊されるおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。


データのバックアップ

HDD内に重要なデータを作成したら、必ずFDなどの別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

購入時のHDD領域について

購入時のHDDは、すべての容量が1つの領域として確保されNTFSでフォーマットされています。

HDD領域の構成を変更したい場合は、Windowsの再インストールが必要です。

 p.121「ソフトウェアの再インストール」

CD-ROMドライブを使う

本機の前面には、CD-ROMドライブが内蔵されています。CD-ROMドライブはデータの入ったデータCDのほかに、音楽CD、ビデオCDやフォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

本機に装着されているCD-ROMドライブは、メディアの認識に時間がかかることがあります。故障ではありません。

本機には、CD-ROMドライブの代わりに、CD-R/RWドライブなどのドライブが装着されているモデルがあります。メディアのセットや取り出しなどの基本的な操作方法は、CD-ROMドライブと同じです。詳しい使用方法は、各ドライブ装置に添付のマニュアルをご覧ください。

CD-ROMのセットと取り出し



CD-ROMアクセスランプ点滅・点灯中にCD-ROMを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

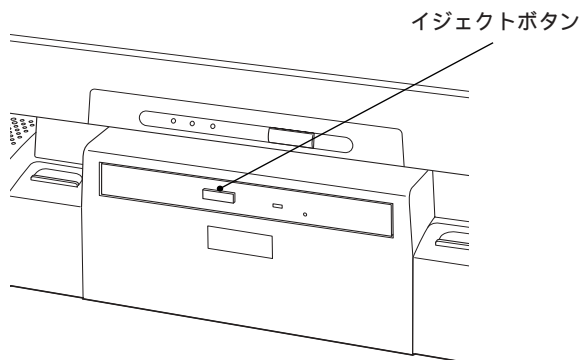
ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。CD-ROMのデータが読めなくなります。

必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。

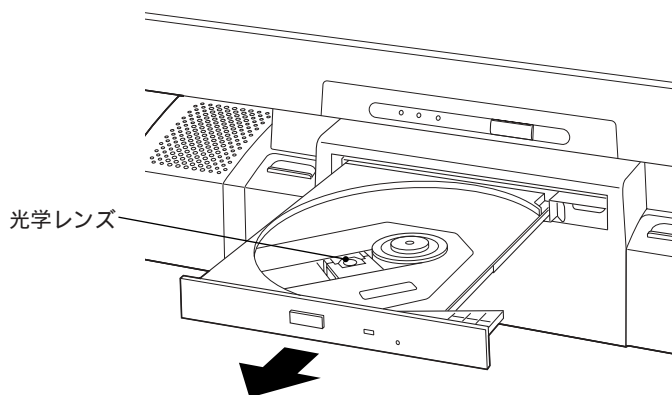
セット方法

1

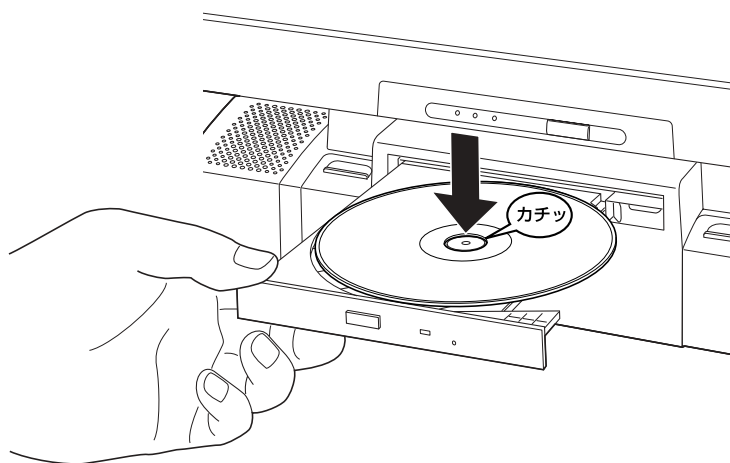
イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。



- 2 ディスクトレイを静かに引き出します。
光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。
CD-ROMのデータが読めなくなります。



- 3 印刷面を上にしてCD-ROMをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまではめ込みます。はめ込むときは、片方の手でディスクトレイを支えます。




- 4 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

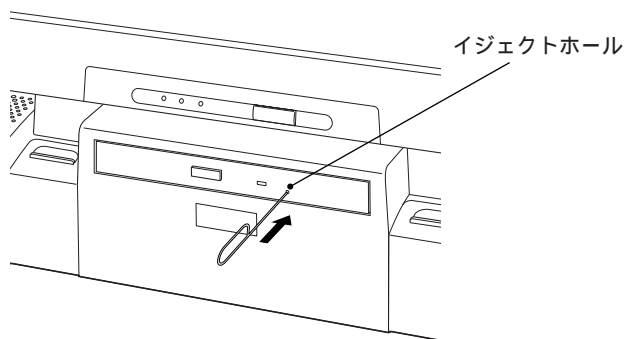
取り出し方法

- 1 イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。
- 2 メディアをディスクトレイから取り出します。
- 3 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

強制的なメディアの取り出し

次のような場合には、強制的にメディアを取り出すことができます。
 CD-ROMドライブが故障して、メディアが取り出せない場合
 メディアをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

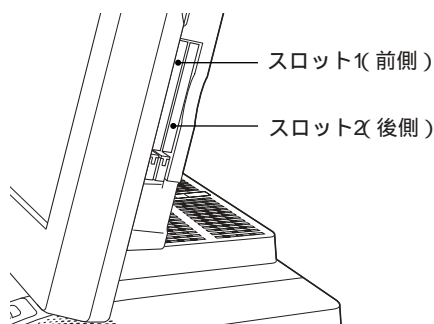
- 1 コンピュータの電源が入っている場合は、コンピュータの電源を切ります。
 p.29「電源の切り方」
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出したらまっすぐ引き出し、メディアを取り出します。

PCカードを使う

本機の右側面には、PCカードスロットが、2スロット装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したType IIおよびIIIのPCカードを装着することができます。同時に装着可能なPCカードは、Type II × 2枚またはType III × 1枚です。各スロットの仕様は、次のとおりです。



< 右側から見た図 >

スロット		装着可能なサイズ	仕様
前側	スロット1	Type II	CardBus対応
後側	スロット2	Type IIまたはType III	CardBus対応

PCカード使用時の制限

CardBus対応のPCカードとECP対応のデバイスを同時に使用できません。ECP対応のデバイスを使用する場合には、CardBus対応のPCカードを取り外してください。

FAXモデムカードやネットワークカードなどは、使用途中に電源の供給が停止されると不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力機能を使用しないでください。

 p.79「省電力機能を使う」

PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴りません。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。

PCカードによっては専用のデバイスドライバが必要です。詳しくはPCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

PCカードの形状によってはType IIでもスロット1に装着できないカードがあります。その場合はスロット2に装着してください。

PCカードのセットと取り外し



制限

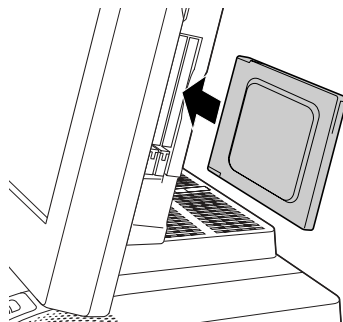
PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、PCカードが壊れることがあります。

PCカードの抜き差しは省電力モード時には行わないでください。システムが正常に動作しなくなる可能性があります。

PCカードの セット

PCカードは、次の手順でセットします。

- 1 使用するPCカードがどのスロットで使用可能か確認します。
FAXモデムカードを「スロット1(前側)」にセットする場合は、カードのモジュラジャックに電話回線を接続した状態でセットしてください。
- 2 PCカードをPCカードスロットに挿入します。
PCカードの表面を前に向けて奥までしっかりと押し込みます。



- 3 コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。

4

認識されるとPCカードが使用できます。

正しくセットされると認識音が鳴り、タスクバーにPCカードアイコンが表示されます。



< Windows 2000 >



< Windows XP >

PCカードによっては、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中にWindowsのCDを要求された場合は、「リカバリCD(Windows XPはリカバリCD Disc1)」をセットしてください。



参考

PCカードの内容を確認するには

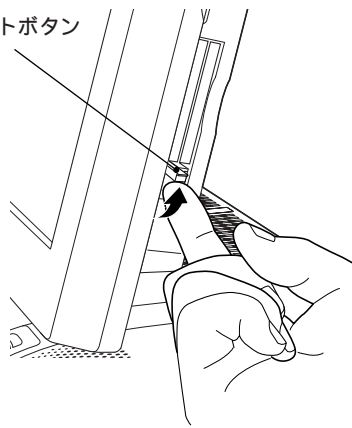
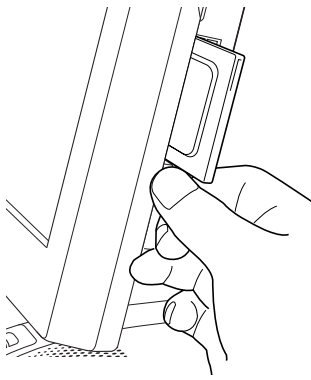
タスクバーにある「PCカード」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で「プロパティ」をクリックします。

PCカードの 取り外し



PCカードの取り外し手順は、次のとおりです。

本機にセットされていたPCカードは、高温になっている可能性があります。火傷に注意して取り外してください。

- 1 「PCカード終了処理」を行うか、またはコンピュータの電源を切ります。
PCカード終了処理は、次の手順で行います。
 - ① タスクバーの「PCカード」アイコンをダブルクリックします。
 - ② 取り外すPCカードを選択して「停止」をクリックします。
 - ③ 画面の指示に従います。「...は、安全に取り外すことができます。」と表示されたらPCカードの終了処理は完了です。
- 2 取り外すPCカードスロットのイジェクトボタンを起こします。

- 3 イジェクトボタンを押します。
Windowsの動作中は、認識音が鳴ります。カードが勢いよく飛び出すことがあるので落とさないように注意してください。

- 4 PCカードが出てきたら、まっすぐに引き抜きます。
取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

表示装置を使う

本章では、使用可能な表示装置とその切り替え方法について説明します。
本機で表示可能な表示装置は、次のとおりです。

本機のLCD画面

外付けディスプレイ(アナログタイプのみ)

LCD画面

本機は、17型TFT SXGAカラーLCD(液晶ディスプレイ)を搭載しています。



LCD画面表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性によって起きるもので、故障ではありません。

液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して約131万画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。

色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。

Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついてみえることがあります。この現象は、市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景が中間色の場合に発生しやすくなります。


明るさの調整

画面の明るさの調節は、輝度調節ダイヤルで行います。

 p. 8「背面(左側)」

LCDユニットとベースユニットの調節

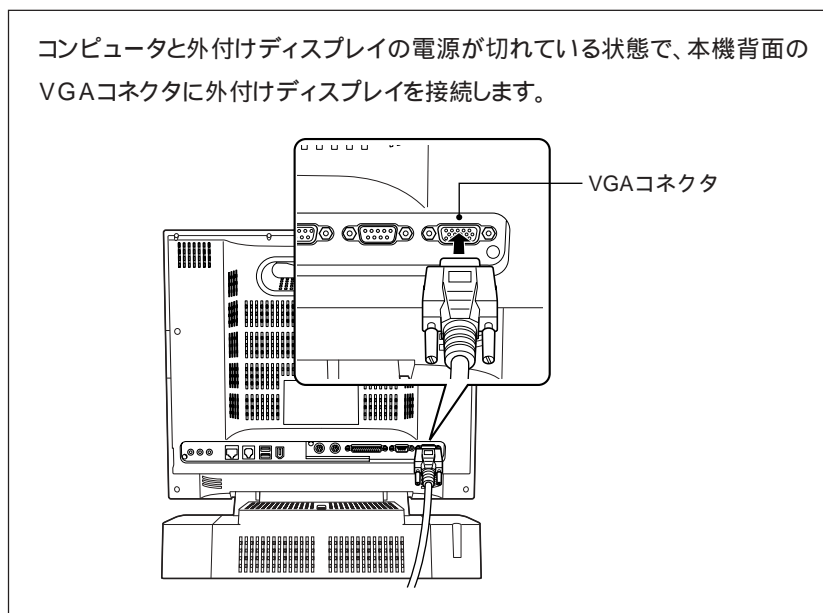
LCDユニットは、後ろに約15度まで倒すことができます。また、ベースユニットは、左右に約270度回転させることができます。

 p. 16「LCDユニットとベースユニットの調節」

外付けディスプレイ

ディスプレイの
接続

本機背面のVGAコネクタに外付けディスプレイ(アナログタイプのみ)を接続することができます。



表示装置の切り替え

本機に外付けディスプレイを接続すると、次の組み合わせで表示させることができます。Windows XPでは、1つの大きな画面をLCD画面と外付けディスプレイに分割して仮想的に表示させることもできます(デュアルディスプレイ機能)。

- ・本機のLCD画面のみ
- ・外付けディスプレイのみ
- ・LCD + 外付けディスプレイ*

* LCD画面と外付けディスプレイに同じ内容を表示させます。

表示装置の切り替えは、次の場所で行います。

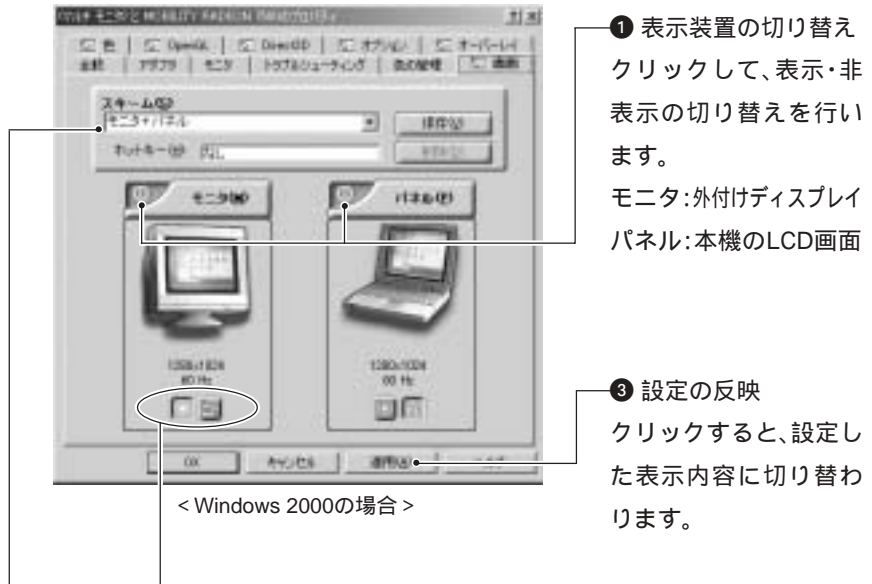
Windows 2000の場合

[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[詳細]-「画面」タブ

Windows XPの場合

[スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」-[詳細設定]-「画面」タブ

切り替え方法は次のとおりです。①、②、③の順に行います。④は必要に応じて行ってください。



② ディスプレイの優先度の設定(LCD+外付けディスプレイで表示させる場合)
クリックして「モニター」をプライマリ、「パネル」をセカンダリに設定します。
☑(プライマリ) ☐(セカンダリ)
動画再生ソフトを両方の装置に表示させる場合は、両方プライマりに設定します。

④ 設定内容の保存

スキーム

任意の設定名を入力し「保存」をクリックすると、上記「画面」タブ内で設定した表示の組み合わせを保存できます。

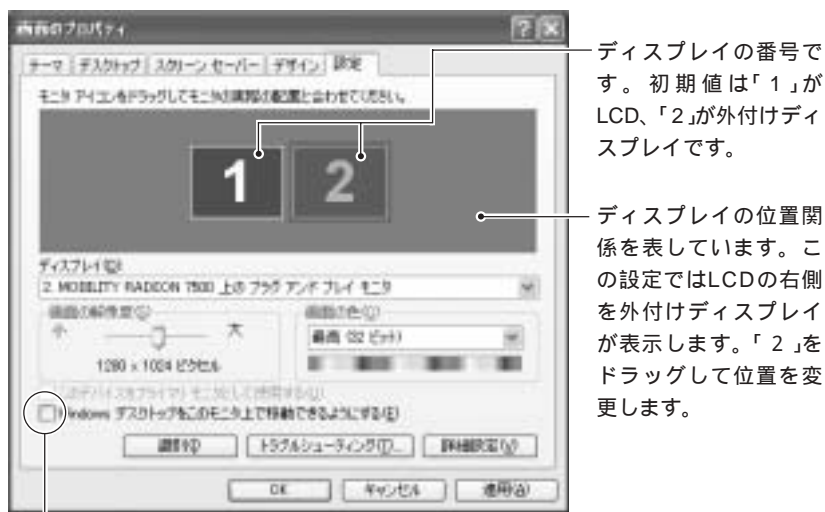
ホットキー

スキームで保存した表示の組み合わせに切り替えるホットキーを設定します。カーソルを合わせて任意のキーを押すと、ホットキーが設定されます。設定されたホットキーが、使用している別のソフトウェアのホットキーと同じ場合は、上記「画面」タブ内で設定したホットキーが優先されます。

デュアルディスプレイ機能
 デュアルディスプレイ機能を使用すると、本機のLCD画面と外付けディスプレイを上下左右に仮想的に並べて表示できます。このため、2つのアプリケーションを別々の画面で同時に使用することもできます。

設定は次の場所で行います。

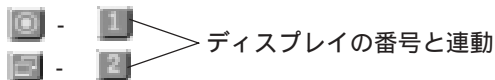
[スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」



ディスプレイの番号「2」をクリックすると、チェックが可能になります。チェックを付いた適用 [A] をクリックすると、デュアルディスプレイ機能が有効になります。

ディスプレイの番号について

ディスプレイの番号は、前ページの「画面」タブ内で変更できます。デュアルディスプレイ機能を有効にすると、「画面」タブ内の優先度を設定するボタンが、次のように変化します。ボタンの番号が、ディスプレイの番号と連動しています。



デュアルディスプレイ機能を無効にするには

「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」のチェックマークを外して [適用] をクリック (このとき画面が乱れる場合があります) します。画面表示がLCDのみに切り替わります。

解像度や表示色を変更する

本機の画面の解像度や表示色数の変更方法と表示できる解像度について説明します。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。



参考

セーフモードでの起動

本機のビデオ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

☞ p.148「LCDの不具合」

解像度や表示色の変更方法

Windows 2000
の場合

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」や「画面の色」の項目を設定したい内容に変更します。



< Windows 2000の場合 >

- 4 項目を変更したら、「適用」をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

Windows XP
の場合

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」をクリックします。
- 2 「画面の解像度」、「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。



解像度を
設定します。


表示色を
設定します。

- 3 項目を変更したら、「適用」をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

表示できる解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は、次ページの表のとおりです。

LCD画面と外付けディスプレイの両方に表示させる場合は、同じ設定でのみ表示できます。デュアルディスプレイ機能を使用する(Windows XPのみ)場合は、別の解像度で表示できます。

 p.53「表示装置の切り替え」



制限

外付けディスプレイの解像度と表示色は、使用するディスプレイの仕様によっては表示できない場合があります。

Windows 2000
の場合

表示色は、「256色」、「High Color(16ビット)」、「True Color(32ビット)」から選択できます。

表示装置 解像度	LCD画面のみ	外付けディスプレイのみ	LCD+外付けディスプレイ (LCDがセカンダリの場合)
640 × 480			
800 × 600			
1024 × 768			
1280 × 1024			
1600 × 1200	×		*

*LCDは仮想スクリーン表示になります。

Windows XP
の場合

表示色は、「中(16ビット)」、「最高(32ビット)」から選択できます。

表示装置 解像度	LCD画面のみ	外付けディスプレイのみ	LCD+外付けディスプレイ (LCDがセカンダリの場合)
800 × 600			
1024 × 768			
1280 × 1024			
1600 × 1200	×		*

*LCDは仮想スクリーン表示になります。

デュアルディスプレイ機能使用時の場合

Windows XPでデュアルディスプレイ機能を使用する場合の解像度は次のとおりです。

表示色は、「中(16ビット)」、「最高(32ビット)」から選択できます。

表示装置 解像度	LCD画面 (ディスプレイ番号「1」)	外付けディスプレイ (ディスプレイ番号「2」)
800 × 600		
1024 × 768		
1280 × 1024		
1600 × 1200	×	

サウンド機能を使う

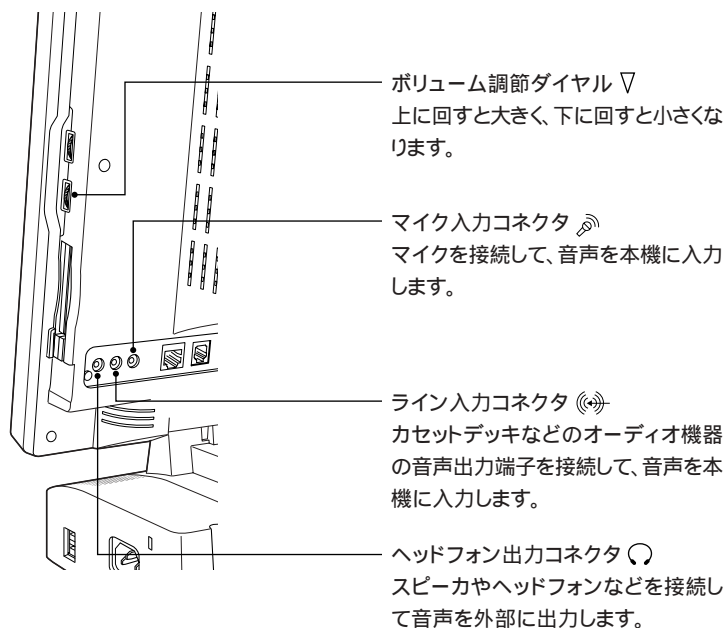
本機には、AC 97対応のサウンド機能(内蔵ステレオスピーカーおよび音声を入出力するためのコネクタ)が搭載されています。

各機能について

本機には、音量を調節するボリューム調節ダイヤル、また、カセットデッキなどのオーディオ機器、外部スピーカやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。それぞれの位置と機能は、次のとおりです。



ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。



<右背面から見た図>



スピーカの接続

スピーカを接続すると内蔵ステレオスピーカの機能は、自動的に無効になります。

音量を調節するには

本機のベースユニットには、ステレオスピーカが内蔵されています。この内蔵ステレオスピーカから音声を出力します。スピーカの音量の調節は、次の方法で行います。

ボリューム調節ダイヤル

本機右側面のボリューム調節ダイヤルで音量を調節します。上に回すと大きく、下に回すと小さくなります。

ボリュームコントロール(Windows 2000)

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。

「スピーカ」アイコン



ボリュームコントロール

システム音量の調整(Windows XP)

[スタート]-「コントロールパネル」-「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」-「システム音量を調整する」をクリックして、「音量」タブの「デバイスの音量」で調整します。

参考

音量調節

使用するPCカード(FAXモデムカードなど)やアプリケーションによっては、別の方法で音量調節ができるようになっている場合があります。お使いになるPCカードやアプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

音を鳴らしたり、録音したりするには

Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。

サウンドユーティリティは、[スタート]-「(すべての)プログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」フォルダに登録されています。

サウンドユーティリティの使い方は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

FAXモデムを使う(FAXモデム機能搭載モデルのみ)

FAXモデム機能搭載モデルには、56Kbps(V.90対応)の通信速度に対応したFAXモデムボードが搭載され、高速の通信が可能です。



FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- ・ 構内交換機 (PBX)
- ・ 2線式でない回線 (ホームテレホンやビジネスホンなど)
- ・ ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

お使いになる前に

使用回線について 本機のFAXモデムは、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

ダイヤル回線 : 回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間により (パルス) ダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

プッシュ回線 : 押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ…」とトーンによる (トーン) 信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な回線での使用

PBXやホームテレホン回線への接続

本機のFAXモデムは構内交換機 (PBX) やホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない回線およびISDN対応公衆電話のデジタル側ジャックに接続して使用できません。モデムに必要以上の電流が流れ、故障の原因になります。これらの回線には接続しないでください。

キャッチホンサービスについて

NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。

なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは、類似サービスの供給元へお問い合わせください。


通信速度の制限	<p>本機のFAXモデムは、V.90*の通信方式により、最大受信速度(プロバイダなどの相手側から本機側への方向)は56000bps、最大送信速度(本機からプロバイダなどの相手側への方向)は、33600bpsになります。</p> <p>ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、使用している電話回線につながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。</p> <p>*V.90 :ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格</p>
通信を行う	<p>本機のFAXモデムを使って、データ通信やファックス機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。</p>
ATコマンドについて	<p>本機のFAXモデムでは、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドの詳細については、添付の「ドライバCD」の「MODEM」-「ATコマンドリファレンス.pdf (英文)」をご覧ください。</p>
国モードの設定について	<p>本機のFAXモデムでは国モード(Country)を、[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「Modem Settings (Windows XPでは[スタート]-「コントロールパネル」-「クラシック表示に切替える」-「Modem Settings」)で日本国(JAPAN)に設定しています。この設定は変更せずに使用してください。</p>
Wake on Ring機能	<p>Wake on Ringとは、着信音により省電力モードから復帰する機能です。本機では、スタンバイまたは休止状態のときのみ、着信音により復帰することができます。シャットダウン時は機能しません。Wake on Ringの設定は、「デバイスマネージャ」-「モデムのプロパティ」-「電源の管理」タブで行います。</p>

インターネットに接続するには

インターネットのホームページを見たり、メールを交換するには、インターネットへの接続が必要です。FAXモデムを使用してインターネットに接続する作業の流れは、次のとおりです。

電話回線の接続


本機のFAXモデムコネクタと電話回線を接続します。

 p.14「電話回線への接続」



ダイヤルするための準備

ダイヤル情報「国」や「市外局番」などを設定します。

 p.66「ダイヤル情報の設定」



プロバイダとの契約とアカウントの登録

個人でインターネットを利用するには、インターネット・サービス・プロバイダ(以降プロバイダ)と契約して、接続のための各種設定を行います。


契約方法には、大きく分けて次の2つの方法があります。

①オンラインで契約する。

電話回線を使用してプロバイダと契約します。インターネットに接続している状態で契約を行うため、画面の指示に従って情報を入力していくと、電話番号の登録やネームサーバーアドレスなどの設定が自動的に行われます。その場で契約してすぐにインターネットを使えます。支払いについては、クレジットカード決済になります。

②ハガキや電話で申し込み、契約する。

プロバイダにハガキや電話で申し込みをすると、インターネットに接続するための資料が送付されます。資料の内容をもとにインターネット接続のための設定を各自で行います(ダイヤルアップ接続の設定)。支払いについては、銀行振込などが利用できます。

 p.67「手でダイヤルアップ接続の設定をする」



回線接続前の設定(Windows XPのみ)

Windows XPで使用する場合には必要な設定をします。

 p.71「回線接続前の設定」



接続

インターネットに接続します。ブラウジング(インターネット閲覧)や、メール交換が可能になります。

本書では、ブラウジングソフトウェアとして「Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)」、電子メールソフトウェアとして「Outlook Express(アウトルックエクスプレス)」を使用することを前提に記載しています。

 p.73「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」



モデムを使わずにインターネットに接続する

FAXモデムを使わずに、次の方法でインターネットに接続することができます。

ISDN回線を利用する

FAXモデムの代わりにTA(ターミナルアダプタ)を使用します。接続方法は、TAの取扱説明書をご覧ください。

ネットワークを利用する

インターネットに接続されたLANなどに接続します。お使いになるネットワーク機器の説明書やネットワーク管理者の指示に従ってください。

ケーブルテレビの回線を利用する

詳しくは、CATV会社にお問い合わせください。

ADSLを利用する

詳しくはADSLサービス会社にお問い合わせください。

プロバイダの選択 プロバイダは、サービスや料金体系、使用頻度やアクセスポイントなどを考慮して、使い方に合わせて選びます。不明点などについては、プロバイダにご確認ください。

インターネットにかかる費用 インターネットを利用する場合に発生する費用は、以下のとおりです。

初期費用: プロバイダへ契約時に支払います。

入会費、登録料のようなものです。無料の場合もあります。

基本料金: 月または年ごとにプロバイダへ支払います。

通信の有無に関わらず請求される一定の料金です。基本料金だけで数時間は無料で使用できます。使用時間別や通話料金込み、使い放題などのコースがあります。

追加課金: 基本料金での対応時間を超えた分だけプロバイダへ支払います。基本料金で使用できる時間を超えると、分あたりいくらかという追加料金が加算されます。

通話料金: プロバイダのアクセスポイントまでの通話料金です。契約している電話会社へ支払います。

アクセスポイントとは、プロバイダが用意している接続地点です。プロバイダへ支払う料金が割安でも、アクセスポイントが市内通話エリアにないと通話料金が割高になります。料金無料のプロバイダもありますが、アクセスポイントが遠いときは、別のプロバイダを選んだ方が良い場合があります。市内通話エリア内にプロバイダのアクセスポイントがあるかどうかを確認しておきましょう。


インターネットを使う上での注意 インターネットや電子メールを利用すると、簡単に情報を得ることができたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、注意しなければならないこともあります。次の点に気を付けて使用してください。

電子メールは、途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。

電子メールは、世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者が内容を見る可能性があります。

インターネット上の情報は、すべてが正しいとは限りません。正しい情報であることを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。

ウィルスに感染したメールを受信したり、気づかずに送信してしまうことがあります。

 p.93「コンピュータウィルスの検索・駆除」

ダイヤルするための準備

ダイヤル情報の
設定

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

- 1 ダイヤル情報の設定画面を表示します。
Windows 2000の場合：[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電話とモデムのオプション」
Windows XPの場合：[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」
- 2 「登録名」、「国/地域」、「市外局番」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。

手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います(ダイヤルアップ接続の設定)。

次の手順は、設定方法の一例です。プロバイダより設定方法の資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。



参考

接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
ユーザー名	コネクションID、PPP ログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID、ID 番号、接続アカウント、ダイヤルアップログイン名
パスワード	PPP パスワード、パスワード、接続パスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mail アカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mail アカウント
メールパスワード	Mail パスワード、パスワード、初期パスワード
メールサーバ	メールサーバー、POP メールサーバー

ダイヤルアップ
接続の設定をする
(Windows 2000)

Windows 2000で手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「通信」-「インターネット接続ウィザード」をクリックします。
- 2 「インターネット接続ウィザード」画面が表示されたら、「インターネット接続を手動で設定するか、…」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 3 「インターネット接続の設定」が表示されたら、「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。
- 4 「ステップ1:インターネットアカウントの接続情報」が表示されたら、接続先の電話番号を入力します。
- 5 プロバイダからDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを指定されている場合は[詳細設定]をクリックして次の設定を行います。
 - ① 「詳細接続プロパティ」画面が表示されたら、「アドレス」タブをクリックします。
 - ② 「ISPによるDNS(ドメイン ネーム サービス)アドレスの自動項目割り当て」項目の「常に使用する設定」にチェックを付けます。
 - ③ 「プライマリDNSサーバー」、「別のDNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを入力し、[OK]をクリックします。
- 6 「ステップ1」画面で[次へ]をクリックします。
- 7 「ステップ2:インターネットアカウントのログオン情報」が表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、[次へ]をクリックします。
- 8 「ステップ3:コンピュータの設定」が表示されたら、任意の「接続名」を入力し、[次へ]をクリックします。

- 9 「インターネットメールアカウントの設定」が表示されたら、「はい」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 10 プロバイダからの資料をもとに次の設定を行います。
- ① 「表示名」にコンピュータ上の任意の名前を入力して、「次へ」をクリックします。
 - ② 「電子メールアドレス」を入力して「次へ」をクリックします。
 - ③ 「受信メールサーバー」と「送信メールサーバー」を入力して「次へ」をクリックします。
 - ④ 「アカウント名」と「パスワード」を入力して「次へ」をクリックします。
- 11 「インターネット接続ウィザードを終了します」と表示されたら「完了」をクリックします。
- 「今すぐインターネットに…」にチェックが付いているとInternet Explorerが起動して、「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。
- 次章「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」に進みます。

ダイヤルアップ 接続の設定をする (Windows XP)

Windows XPで手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「通信」-「新しい接続ウィザード」をクリックします。
- 2 「新しい接続ウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 3 「ネットワーク接続の種類」と表示されたら、「インターネットに接続する」にチェックが付いている状態で「次へ」をクリックします。
- 4 「準備」と表示されたら、「接続を手動でセットアップする」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 5 「インターネット接続」と表示されたら、「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」にチェックが付いている状態で「次へ」をクリックします。
- 6 「接続名」と表示されたら、接続先の名前を入力して「次へ」をクリックします。

- 7 「ダイヤルする電話番号」と表示されたら、接続先の電話番号を入力して[次へ]をクリックします。
- 8 「インターネットアカウント情報」と表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」をそれぞれの項目に入力して[次へ]をクリックします。
- 9 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 10 [スタート]-「接続」-「(手順6で設定した接続先の名前)」をクリックします。
- 11 [プロパティ]をクリックします。
- 12 プロバイダからDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを指定されている場合は次の設定を行います。
- ① 「ネットワーク」タブの「インターネットプロトコル(TCP/IP)」の[プロパティ]をクリックします。
 - ② 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。
 - ③ 「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを入力し、[OK]をクリックします。
- 13 「全般」タブ-「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて[OK]をクリックします。
- 14 [キャンセル]をクリックします。

回線接続前の設定(Windows XP)

Windows XPでは回線接続前に次の設定を行います。

接続に関する設定

Outlook Expressの初期設定

接続に関する設定 接続に関する設定は次のとおりです。

接続方法の設定

電話回線を使用してインターネットに接続するように設定します。

切断画面の設定

Internet Explorerを終了した際に、インターネットとの切断画面を表示するように設定します。

接続に関する設定は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「ネットワークとインターネット接続」-「インターネットオプション」-「接続」タブをクリックします。
- 2 「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。
(接続方法の設定)
- 3 [設定]-[詳細設定]をクリックします。
- 4 「接続がなくなったら切断する」にチェックを付けて[OK]をクリックします。(切断画面の設定)
- 5 「(接続先の名前)の設定」画面で[OK]をクリックします。
- 6 「インターネットのプロパティ」画面で[OK]をクリックします。これで接続に関する設定は終了です。

Outlook Expressの 初期設定

Outlook Expressを初めて起動した際には、メールアドレスなどいくつかの情報を入力する必要があります。オンライン契約ではこの設定が必要ない場合があります。

初期設定は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「Outlook Express」をクリックします。
- 2 「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して「次へ」をクリックします。
- 3 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得した電子メールアドレスを入力して「次へ」をクリックします。
- 4 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されているサーバー名を入力して「次へ」をクリックします。
- 5 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているアカウント名とパスワードを入力して「次へ」をクリックします。
- 6 「設定完了」と表示されたら、「完了」をクリックします。



参考

初期設定をあとから行う
「Outlook Express」の次の場所から設定を行うことができます。
「ツール」メニュー - 「アカウント」 - 「追加」 - 「メール」

Internet Explorerと Outlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するためのソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)


インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。

Outlook Express(アウトルックエクスプレス)

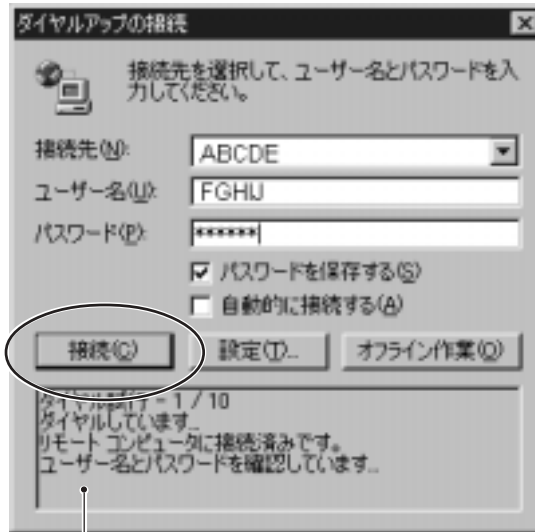
メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

起動方法

起動方法は、次のとおりです。

- 1 ソフトウェアを起動します。
Internet Explorer :[スタート]-「(すべての)プログラム」-「Internet Explorer」
Outlook Express :[スタート]-「(すべての)プログラム」-「Outlook Express」
Outlook Expressを起動したときに、「オンラインに切り替えますか?」と表示されることがあります。インターネット接続する場合は「はい」をクリックします。
Windows XPで初期設定を行っていない場合は初期設定を行います。
 p.72「Outlook Expressの初期設定」
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。「接続先」「ユーザー名」「パスワード」を入力します。
自動的に入力されている項目もあります。

- 3 入力内容を確認して [接続] をクリックします。



[接続] をクリックすると接続状態が表示されます

- 4 接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。
接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。



ダイヤルアップネットワークから接続する

インターネットへの接続は次の方法でも行えます。

Windows 2000 : [スタート] - 「設定」 - 「ネットワークとダイヤルアップ接続」 - 「(接続先の名前)」をダブルクリック

Windows XP : [スタート] - 「接続」 - 「(接続先の名前)」をクリック

この場合は、接続完了後にソフトウェアを起動します。


メールソフトウェア使用時のインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

終了方法


Internet Explorerの場合

Internet Explorerの終了方法は、次のとおりです。

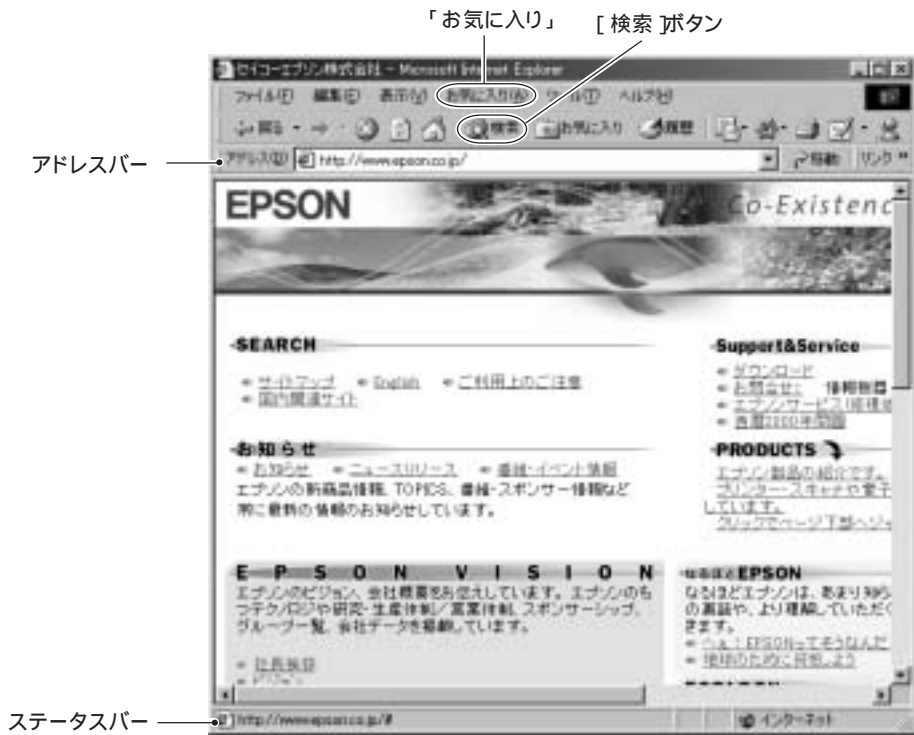
- 1 画面右上のをクリックして、「Internet Explorer」を終了します。
- 2 「自動切断」画面が表示されます。「今すぐ切断する」をクリックします。

Outlook Expressの場合

Outlook Expressの終了方法は、次のとおりです。

- 1 インターネットに接続している場合は、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。
- 2 「オフライン状態にする前に、モデム回線を切断しますか」と表示されたら「はい」をクリックします。
- 3 画面右上のをクリックして、「Outlook Express」を終了します。

Internet Explorerの使い方



画面の内容は予告なく変更する場合があります。

見たいホームページを開く

・アドレスバーにURLアドレスを入力して  を押します。

・キーワードを使って検索します。

[検索]ボタンを押して、検索画面でキーワードを入力します。



「お気に入り」にページを登録する

よく見るページは「お気に入り」に登録しておくと、すぐにアクセスできます。

・登録:「お気に入り」-「お気に入りの追加」をクリックして登録します。

・登録したお気に入りにアクセスする:「お気に入り」をクリックすると、一覧が表示されます。

リンクしているページにジャンプする

ホームページの画面上でマウスポインタが  から  に変わる場所があります。そこでクリックすると、リンク先のページ(ステータスバーに表示されているアドレス)にアクセスできます。

Outlook Expressの使い方



接続の状態を表示します。

オンライン: インターネットに接続しています。

オフライン: インターネットに接続していません。



参考

メールの作成とインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときはインターネットに接続されている必要はありません。Outlook Express使用時にインターネットを切断するには、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。

メールを送信する（オンラインの場合）

- 1 [新しいメール] [Windows XPでは[メール の作成] をクリックしてメール作成画面を表示します。
- 2 必要事項「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。
- 3 [送信] をクリックします。

メールを送信する（オフラインの場合）

- 1 上記手順「メールを送信する（オンラインの場合）」1、2を参照して、メールを作成します。
- 2 [送信] をクリックすると、「送信トレイ」フォルダにメールが一時保存されます。複数のメールを作成し、一度に送信することができます。
- 3 [送受信] をクリックして、「...オンラインに切り換えますか?」と表示されたら [はい] をクリックします。
- 4 「ダイヤルアップ接続」画面で [接続] をクリックします。接続が完了すると、「送信トレイ」に保存されていたメールが送信されます。

メールを受信する

- 1 「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると自動的に受信します。
インターネットに接続されていない場合は、[送受信] をクリックすると接続作業が行われます。
- 2 受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。
「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。

アドレス帳を作る

アドレス帳にメールアドレスを登録しておくこと、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

- 1 [アドレス] をクリックします。
- 2 [新規作成] をクリックして、「新しい連絡先」をクリックします。
- 3 情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。

省電力機能を使う

省電力機能を利用すると、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行したりして、消費電力を抑えることができます。



制限

次の状態でスタンバイまたは休止状態に入ると、正常に復帰できない、接続が切断される、誤動作するなどの現象が起こることがあります。省電力機能を使用する前に接続する機器やアプリケーションに添付のマニュアルを確認してください。

NetWareサーバーを利用している状態やNetBEUIを使用してネットワークに接続している状態。

ネットワーク上のファイルなどを開いたままの状態。

FAXモデムやネットワークなどのPCカードを使用しているとき。

サウンド機能を使って録音・再生しているとき。

電源管理機能との相性が良くない周辺機器を接続し動作させている場合。

アプリケーションを起動した状態または動作中。

このような場合は、下記のいずれかの対処方法を取ってください。

切断後に再度ログオンする。(Netwareサーバーを利用している場合のみ)
再起動する。

省電力モードを無効にする。

省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。電源スイッチを切った状態と同様にほとんど電力を消費しません。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが橙色に点滅します。通常モードにすぐに復帰できます。

休止状態

作業内容をHDDに保存してコンピュータの電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様にほとんど電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。PCカードや周辺機器によっては、復帰後に正常に使用できなくなるものがあるので、注意が必要です。

電源ランプの表示 省電力モードの状態は、電源ランプによって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	橙点滅
休止状態	消灯
電源切断時	消灯

休止状態を有効にする

「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」にチェックを付けると休止状態が有効になります。

休止状態の設定は、次の画面で行います。

Windows 2000: [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「電源オプション」 - 「休止状態」タブ

Windows XP : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「電源オプション」 - 「休止状態」タブ



<Windows 2000の場合>

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。

省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないと、省電力モードに移行します。

② 直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

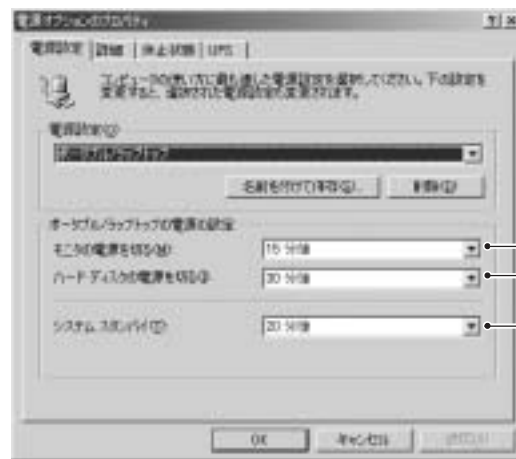
省電力機能に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

Windows 2000:[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源オプション」

Windows XP : [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、各モードに移行します。

Windows 2000の場合

直ちに実行

次の2とおりの方法で、スタンバイ、または休止状態を強制的に実行します。

スタートボタンから実行する

Windows 2000 の場合 : [スタート]-「シャットダウン」から選択実行します。

Windows XP の場合 : [スタート]-[終了オプション]から選択実行します。

電源スイッチを押して実行する

電源スイッチを押したときに、どのモードに入るかをあらかじめ「詳細設定」タブで設定しておきます。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

Windows 2000の場合

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

スタンバイからの復帰方法は、「BIOS Setupユーティリティ」-「Power」メニュー画面 - 「USB S3 Wake Up Control」の値により異なります。

☞ p.118「Powerメニュー画面」

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	緑点灯	キーボードやマウスを操作します(誤って電源スイッチを押さないでください)。
スタンバイ (USB S3 Wake Up Control : Disabled)	橙点滅	電源スイッチを押します。
スタンバイ (USB S3 Wake Up Control : Enabled)		電源スイッチを押すか、USBデバイスを操作します。
休止状態	消灯	電源スイッチを押します。

USBデバイスの操作による復帰は、USB2.0機能搭載モデルでは機能しません。

ネットワーク機能を使う

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークに接続されたほかのコンピュータとデータのやり取りができるほか、ファイル、プリンタなどを共有して使用することができます。



本機では、ネットワークコネクタ 有線LAN とワイヤレスLANボード(無線LAN) を同時に使用した場合の動作について、保証していません。

ネットワークコネクタを使う

本機には、10Base-T/100Base-TXに対応したネットワークコネクタを標準で装備しています。このネットワークコネクタを使用してネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ、サーバーなどが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。ネットワークの構築は、お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワーク管理者の指示に従って行ってください。



NetWareサーバーを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。

このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

ネットワーク上のファイルなどを開いたままだと、省電力モードに移行できないことや通常モードに復帰できないことがあります。

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、Wakeup On LANやリモートブートなどの機能を使用できます。


Wakeup On LAN

Wakeup On LANとは、電源切断時にネットワークからの信号により本機を復帰させることができる機能です。ただし、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。Wakeup ON LANの詳細な使用法はネットワーク管理者の指示に従ってください。

リモートブート

リモートブートとは、本機のHDDにOSがインストールされていなくても、ネットワークを介して、サーバー上からOSをインストールすることができる機能です。リモートブートの詳しい使用方はネットワーク管理者の指示に従ってください。本機でリモートブートを使用するためには、あらかじめリモートブートを有効に設定し、BIOS SetupユーティリティのBootメニューで、起動順位を変更する必要があります。

リモートブートを有効にする設定および起動順位の変更は、次の手順で行います。

- 1 コンピュータの電源を入れます。電源が入っている場合はリセットします。
- 2 コンピュータ起動時に、画面左上に次のメッセージが数秒間表示されます。表示されている間に **[Shift] + [F10]** を押します。
Realtek RTL8139(A/B/C)/RTL8130 Boot Agent
Press Shift-F10 to configure...
- 3 青い画面に切り替わり、「Configuration Menu」画面が表示されます。「Boot Order」を選択して **[→]** を数回押し、次の設定値を選択します。
(リモートブートを有効にする設定)
PnP/BEV(BBS)
- 4 **[F4]** を押します。コンピュータが自動的に再起動します。
- 5 再起動時に **[F2]** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
- 6 「Boot」メニュー画面を選択し、「Realtek Boot Agent」を起動順位の1番に変更します。(起動順位の変更)
 p.119「Bootメニュー画面」
「Realtek Boot Agent」は、購入時には表示されていません。手順3でリモートブートを有効に設定すると表示されるようになります。
- 7 「Exit」メニュー画面 - 「Exit Saving Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
これで、リモートブートの設定は終了です。

ワイヤレスLANボードを使う(ワイヤレスLAN機能搭載モデルのみ)

ワイヤレスLAN機能搭載モデルには、IEEE802.11bに準拠したワイヤレスLANボードが搭載されています。ワイヤレスLAN(無線LAN)とは、電波などを利用して通信を行うネットワークのことです。本書では、次の事項について主に記載しています。

電波やセキュリティに関する情報

本機を接続する方法(すでにワイヤレスLANの構築が整っている場合)



航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切ってください。

電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部から本製品を22cm以上離して使用してください。

電波により植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

医療機関の屋内では次のことを守ってください。

- ・手術室、集中治療室(ICU)、冠状動脈疾患監視室(CCU)には、本機を持ち込まないでください。
- ・病棟内では、本機の電源を切ってください。
- ・ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切ってください。
- ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
- ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。

自宅療養など医療機関以外で、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を使用する場合には、電波の影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。

ワイヤレスLANの構築について

ワイヤレスLANを構築するためには、電波を受信するアクセスポイント(以下、AP)と呼ばれる機器などが必要です。APの設定やネットワーク環境が整っていない場合は、お使いになるAPに添付のマニュアルやネットワーク管理者の指示に従って、環境を整えてください。

- 特長** 本機に搭載しているワイヤレスLANの特長は、次のとおりです。
- ・ 無線通信で使用する周波帯域は2.4GHzです。
 - ・ 最大11Mbpsでのデータ転送が可能です。
- 注意事項** ワイヤレスLANをお使いの前に、下記電波に関する注意事項をお読みください。
- 本機のワイヤレスLANボードは、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。従って、本機のワイヤレスLANボードを使用するときに無線局の免許は必要ありません。なお、日本国内でのみ使用できます。
- 本機のワイヤレスLANボードは、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
- ・ 本機を分解/改造する
 - ・ 本機の裏面に貼ってある証明ラベルをはがす
- 本機のワイヤレスLANボードは、電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください(環境により電波が届かない場合があります)。
- 2.4GHz付近の電波を使用している無線装置など他製品の近くで使用すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。
- 本機のワイヤレスLANボードの使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、以下の機器や無線局と同じ周波数帯を使用します。
- ・ 産業・科学・医療用機器
 - ・ 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
 - ① 構内無線局(免許を要する無線局)
 - ② 特定小電力無線局(免許を要しない無線局)
- 上記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、付近に移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本機のワイヤレスLANボードから移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、ワイヤレスLANボードの使用チャンネルを速やかに変更して、電波干渉をしないようにしてください。

セキュリティの 確保

ワイヤレスLANは電波を使用して通信するため、第3者に電波を傍受され、ネットワークに不正に進入される恐れがあります。このため、お使いになる前に、セキュリティの確保を行う必要があります。ワイヤレスLANを構築するために必要なAPには、セキュリティに関連する次の項目が設定できます。詳しい設定方法などは、お使いになるAPに添付のマニュアルをご覧ください。

ESS-ID

ESS-IDとは、構築された各ワイヤレスLANのグループ名のことで、本機のワイヤレスLANボードでは、APとの接続設定を行うと自動的にAPのESS-IDを検出します。

WEPキー

WEPキーとは、APとの通信を行う際に、データを暗号化して行うかどうかを設定するためのパスワードのようなものです。APにWEPキーを設定し、同じWEPキーをクライアント側に設定すると、APとクライアントのデータ通信が暗号化され、データが傍受されにくくなります。WEPキーを設定すると、通信速度のパフォーマンスは低下しますが、プライバシーを守るためには、設定することをお勧めします。

MACアドレス登録

MACアドレスとは、各ネットワーク製品に割り当てられている固有の番号のことです。AP側に本機のワイヤレスLANボードのMACアドレスを登録すると、登録されていないIMACアドレスからのアクセスを防ぐことができます。本機のワイヤレスLANボードのMACアドレスは、画面右下のタスクバーにある「ワイヤレスLANアイコン」を右クリックして、「Like Status」をクリックすると、「Station MAC address」に表示されています。



<ワイヤレスLANアイコン>

APとの接続方法 ここでは、本機にインストールされているユーティリティを使用して、すでに構築されたワイヤレスLANのAPに、本機を接続する方法を説明します。



制限

ワイヤレスLANは、Wakeup On LANとリモートブートには対応していません。

Windows 2000の場合

本機のワイヤレスLANボードとAPを接続する手順は、次のとおりです。

- 1 タスクバーの「ワイヤレスLANアイコン」をダブルクリックします。
「Available network」に自動的にAPが検出されます。
- 2 APにWEPキーが指定されている場合は、「Network Key」欄にWEPキーを入力します。これで、ワイヤレスLANの接続設定は終了です。

Windows XPの場合

本機のワイヤレスLANボードとAPを接続する手順は、次のとおりです。

- 1 タスクバーの「ワイヤレスLANアイコン」をダブルクリックして、「ワイヤレスネットワーク」タブをクリックします。
「利用できるネットワーク」に自動的にAPが検出されます。
- 2 APにWEPキーが指定されている場合は、下記手順を実行します。
 - ① [構成] をクリックして、「ワイヤレスネットワークのプロパティ」画面を開きます。
 - ② 「キーは自動的に提供される」のチェックを外して、「ネットワークキー」にWEPキーを入力します。
 - ③ 「ネットワークキーの確認入力」にもう一度WEPキーを入力して、[OK] をクリックします。
 - ④ もう一度 [OK] をクリックして「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面を閉じます。これで、ワイヤレスLANの接続設定は終了です。

チャンネルの切り替え

本機のワイヤレスLANボードから発信する電波が、ほかの無線機器の電波と干渉してしまった場合は、使用チャンネルを変更してください。使用チャンネルの変更方法は、お使いになるアクセスポイントにより異なります。詳しくは、お使いのアクセスポイントに添付のマニュアルをご覧ください。

ネットワーク機能の切り替え

ネットワークコネクタ(オンボードのネットワーク機能)を使用した有線LANに接続を切り替えたい場合は、ワイヤレスLAN機能を無効に設定する必要があります。また、有線LANの接続を、ワイヤレスLANの接続に切り替える場合も同様です。



本機では、ネットワークコネクタ(有線LAN)とワイヤレスLANボード(無線LAN)を同時に使用した場合の動作について、保証していません。

表にまとめると次のようになります。

	ワイヤレスLAN機能	オンボードのネットワーク機能
ワイヤレスLANに接続する	有効	無効
有線LANに接続する	無効	有効

ワイヤレスLAN機能、オンボードのネットワーク機能、それぞれの有効/無効の設定は、次の場所に表示されている各接続アイコンを右クリックして行います。

Windows 2000の場合

[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「ネットワークとダイヤルアップ接続」

Windows XPの場合

[スタート]-「コントロールパネル」-「ネットワークとインターネット接続」-「ネットワーク接続」

そのほかの機能

パラレルコネクタを使う

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。本機では、パラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常は、パラレルポートの設定を変更する必要はありません。ただし、使用する周辺機器で指定がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.114「I/O Device Configurationサブメニュー画面」

シリアルコネクタを使う

本機背面のシリアルコネクタには、シリアルマウスや外付けのFAXモデム、TA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機では、シリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。ただし、使用する周辺機器で指定がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.114「I/O Device Configurationサブメニュー画面」

USBコネクタを使う

本機には、USBコネクタが背面に2個、右側面に2個用意されています。USB2.0機能搭載モデルでは、4個のコネクタは、USB2.0対応のコネクタになります。

USBコネクタの仕様

USBコネクタには、USB対応の機器を接続します。USB2.0機能搭載モデルでは、USB対応の機器のほかにUSB2.0対応の機器も接続することができます。4個のコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。接続する機器によっては、デバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。



コンピュータの電源コードが接続されている状態では、常にUSBポートに5Vの電力が供給されています。たとえば、光学式のUSBマウスなどを接続しておくと、コンピュータの電源を切った状態でも、マウスが光り続けます。これは、製品の仕様で、故障ではありません。

接続と取り外し

USB機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行えます。

ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。



< Windows 2000の場合 >



< Windows XPの場合 >

転送速度 (USB2.0機能 搭載モデルのみ)

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

IEEE1394コネクタを使う(IEEE1394搭載モデル)

IEEE1394機能搭載モデルには本機背面にIEEE1394コネクタ(6ピン)が1個用意されています。また、6ピン - 4ピン仕様のIEEE1394ケーブルが添付されています。IEEE1394コネクタにはIEEE1394対応の機器を接続します。接続する機器によっては、デバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する機器のマニュアルをご覧ください。

接続と取り外し

IEEE1394機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行えます。

ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

ビデオ編集をする

IEEE1394機能搭載モデルには、ビデオ編集のためのソフトウェア「Symphomovie」がインストールされています。デジタルビデオからの画像の取り込み、編集を行うことができます。デジタルビデオとの接続や、編集方法など「Symphomovie」の詳しい使用法は、『Symphomovieユーザーズマニュアル』をご覧ください。

■ コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「Norton AntiVirus2002」が添付されています。購入時には、「Norton AntiVirus2002」はインストールされていないのでインストールを行ってください。
インストール方法や詳しい使い方は、『Norton AntiVirus2002をご使用の前に』をご覧ください。



システムの拡張

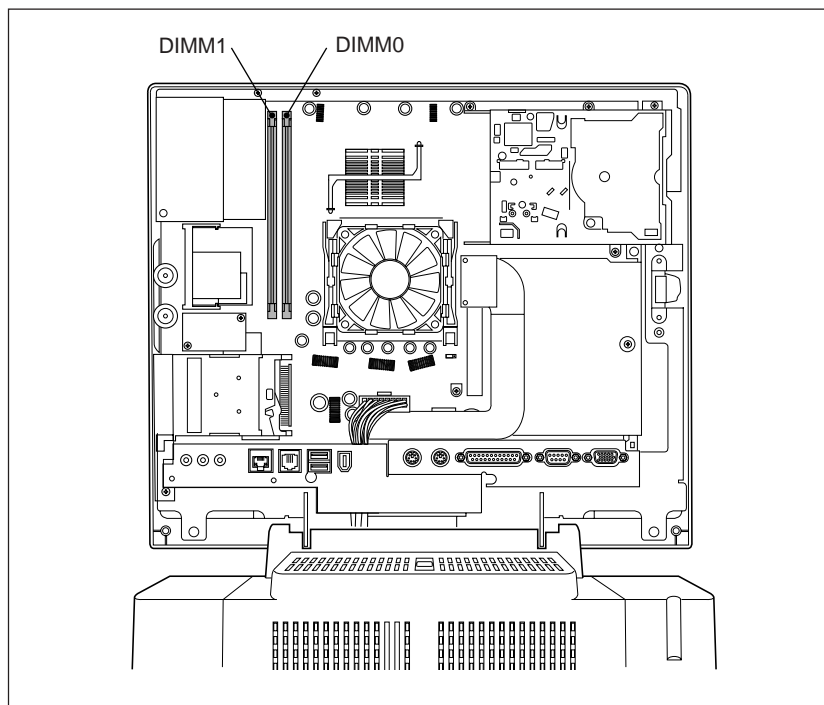
メモリの増設方法やコンピュータに接続できる装置について説明します。

DIMMの増設

本機は、DIMM(メモリ)を増設・交換することができます。本章では本機で使用可能なDIMMの仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。

DIMMの仕様

本機には、2つのDIMMソケットが用意されており、DIMMを増やすことにより最大1GB(512MB×2本)まで拡張できます。DIMMソケットはDIMM0とDIMM1の2本あります。2本のソケットに取り付けの優先順位はありません。



DIMMを増設する場合は、下記仕様と一致するDIMMを、弊社のオプション一覧より選択してください。オプション一覧は、ホームページに掲載しています。ホームページのアドレスは『サポートサービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

PC2100 DIMM(DDR266 SDRAM使用、184ピン)

メモリ容量* 128MB、256MB、512MB

Non ECC

* 2002年10月現在の情報です。今後、新しい容量のメモリを取り扱う場合があります。その場合は、弊社ホームページのオプション一覧に随時掲載する予定です。

作業時の注意

DIMMを増設、交換する場合は、次の点に注意してください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや感電・火災の原因となります。



DIMMの増設・交換は、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電源が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。DIMMやコンピュータに静電気が流れると、基板上の部品が壊れるおそれがあります。DIMMを持つときは、DIMMの端子部や素子に触れないでください。DIMMの破損や接触不良による誤動作の原因になるおそれがあります。

装着する方向を間違えないでください。DIMMが抜けなくなるなど故障の原因になります。

DIMMを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。

DIMMの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

背面カバーの取り外し・取り付け

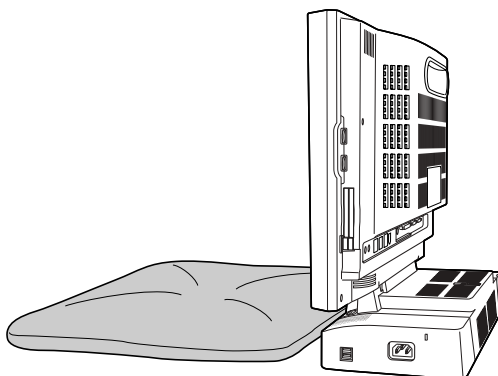
DIMMの増設・交換を行うには、背面カバーを取り外す必要があります。

場所の確保と 布の用意

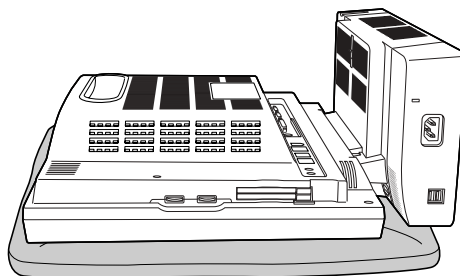
背面カバーを取り外す場合は、LCDユニットを倒して、ユニットの背面を上にして置く必要があります。作業ができる十分な場所を確保してください。また、LCD画面を傷つけないようにユニットの下に敷く厚手の布を用意してください。ただし、毛布などは静電気が発生しやすく、ホコリも立ちやすいので使用しないでください。

取り外し

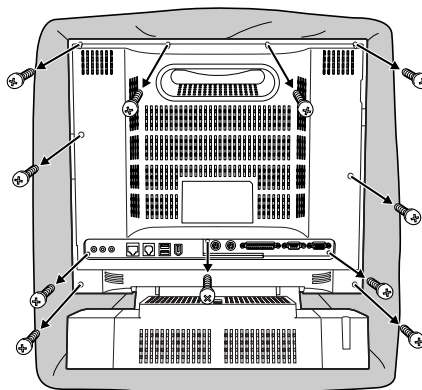
- 1 本体カバーを取り外す前に、次の事項を確認してください。
FD、PCカードがセットされている場合は、取り出します。
PCカードのイジェクトボタンが起きている場合は、倒します。
キーボードストレージを使用している場合は、元に戻します。
- 2 本機の電源を切ります。
- 3 接続しているすべてのケーブルを外します。必ず電源コードも外します。
- 4 厚手の布をLCDユニットの前面に敷きます。
- 5 LCDユニットを垂直に立てます。



- 6 LCDユニットを前面に倒します。
ベースユニットとLCDユニットを抱えてゆっくり倒し、振動を与えないようにしてください。



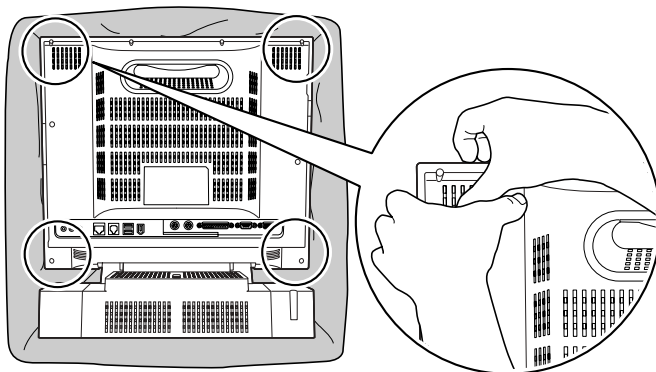
- 7 LCDユニット背面のネジ(11本)を外します。



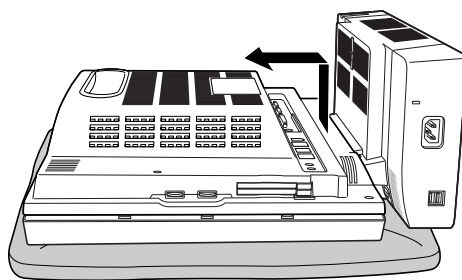
8 背面カバーを外します。

① 背面カバーの四隅をLCDユニットから外します。

カバーを外す際にPCカードイジェクトボタンやFDDイジェクトボタンが引っ掛からないように気を付けてください。



② 背面カバーを矢印のように動かして外します。


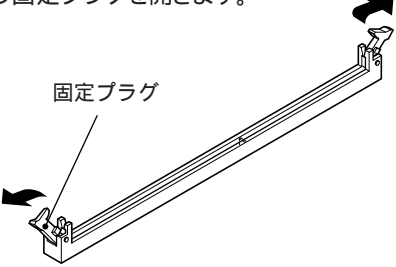


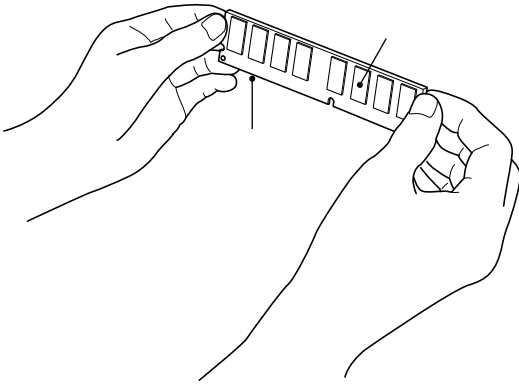
取り付け

- 1 背面カバーをLCDユニットに合わせてはめ込みます。
LCDユニットの下側を合わせてから上側を合わせます。
- 2 ネジ(11本)で背面カバーを固定します。
ネジ位置はp.99「背面カバーの取り外し・取り付け」の手順7を参照してください。
- 3 LCDユニットを起こします。
LCDユニット上側とベースユニットを持って起こします。
- 4 ケーブル類をもとどおりに接続します。

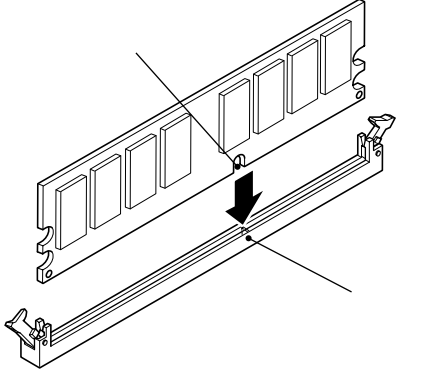
DIMMの取り付け

DIMMの 取り付け

- 1 背面カバーを外します。
 p.98「背面カバーの取り外し・取り付け」
- 2 DIMMソケットの固定プラグを開きます。


固定プラグ
- 3 DIMMを静電防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。


端子部

素子
- 4 DIMMソケットにDIMMを差し込みます。
 - ① DIMMの切り欠きをDIMMソケット内の仕切りに合わせます。
 - ② さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。

切り欠き

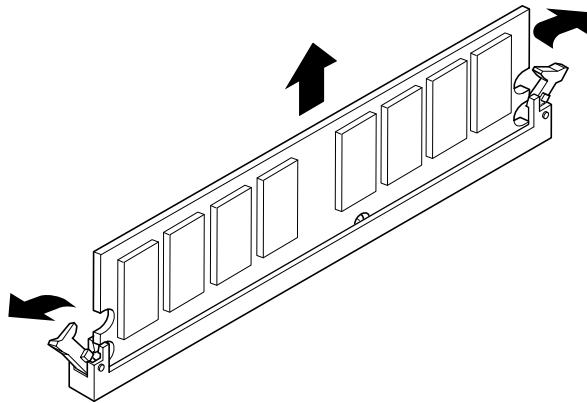
仕切り

- 5 背面カバーを取り付けます。
☞ p.100「背面カバーの取り付け」
- 6 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。
- 7 メモリ容量を確認します。
- ① コンピュータを起動し、**F2** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
☞ p.107「BIOS Setupユーティリティの起動」
 - ② 「Main」メニュー画面の「Extended Memory」に表示されている総メモリ容量を確認します。
本機は、メインメモリの1MBを自動的にシステムリソースに割り当てます。このため、取り付けしている総メモリ容量から1MBを引いた容量が表示されます。

装着したDIMMの容量だけメモリ容量が増えていればDIMMは正しく取り付けられています。増えていない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

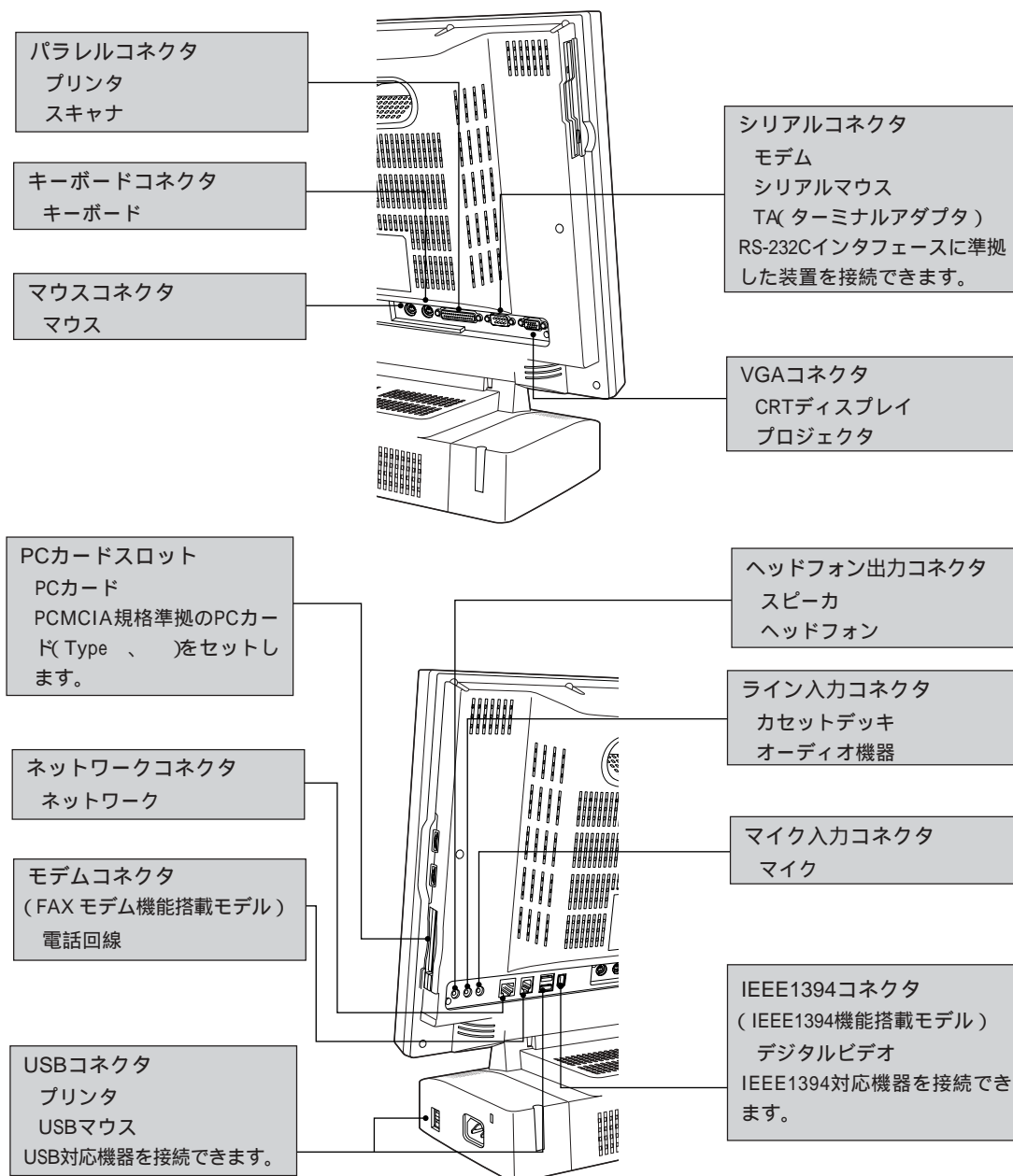
DIMMの外し方

DIMMの両端を固定している固定プラグを開きます。
取り外したDIMMは静電防止袋に入れて保管してください。



外付け可能な周辺機器

本機には、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書および接続する周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。





BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。

BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。



リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうなどの現象が頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

p.164「リチウム電池の交換」



制限

BIOS Setupユーティリティで設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値（初期値）と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

p.120「BIOSの設定値」

BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行してください。

p.110「設定値をもとに戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

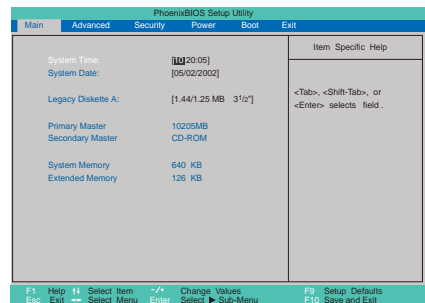
1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。

2 黒い画面の下の方に次のメッセージが表示されている間にキーボードの **F2** を押します。
表示される時間は短いです。

Press <F2> to enter SETUP
このメッセージが表示されている間に **F2** を押さないとWindowsが起動します。



3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。



BIOS Setupユーティリティ画面

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to resume, F2 to SETUP

このメッセージが表示されたら **F2** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。操作は、次の順番で行います。

- ① 「処理メニュー」を選択
- ② 「設定項目」を選択
- ③ 「設定値」を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。各設定項目の説明は、p.112をご覧ください。

<メニュー画面>

① 「処理メニュー」を選択
→ ← で変更します。
起動直後は、「Mainメニュー画面」が表示されています。

② 「設定項目」を選択
↑ ↓ で変更します。

③ 「設定値」を選択
黒字表示されていると、設定変更可能です。
+ / - を押すと値が変わります。
↓ を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。



<選択ウィンドウ>
選択ウィンドウ内の設定値を
↑ ↓ で変更し、← で設定します。

▶ マークの付いている設定項目を選択して ← を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

<サブメニュー画面>

「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。
Esc を押すと <メニュー画面> に戻ります。

キー操作一覧

キー	操作できる内容
F1 , Alt + H	ヘルプを表示します。
Esc	<ul style="list-style-type: none"> ・「EXITメニュー画面」を表示します。 ・「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。
↑ , ↓	設定を変更する項目を選択します。
← , →	処理メニューを選択します。
- , +	項目の値を変更します。
↵	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ・選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ・設定値を選択します。
F9	<p>「Load Setup Defaults」を表示します。全設定項目の値を、初期値に変更できます。</p> <p> p.110「設定値をもとに戻すには」</p>
F10	<p>「Exit Saving Changes」を表示します。変更した設定値を保存して終了できます。</p> <p> p.111「BIOS Setupユーティリティの終了」</p>

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup
Defaults
(初期値に戻す)

BIOS Setupユーティリティのすべての設定値を、BIOSの初期値に戻します。

- 1 **F9** を押す、または「Exit」メニュー画面 - 「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load default configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を初期値に戻す場合は、[Yes] を選択して **←** を押します。

Discard
Changes
(前回保存した
設定値に戻す)

変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面 - 「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load previous configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[Yes] を選択して **←** を押します。

BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2通りの方法があります。

変更した内容を
保存し、終了する
(Exit Saving
Changes)

- 1 を押す、または を押し、「Exit」メニュー画面を選択します。
- 2 「Exit Saving Changes」を選択し を押します。次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Save configuration changes and exit now ?	
[Yes]	[No]
- 3 変更した設定値を保存して終了する場合は [Yes] を選択し、 を押します。

変更した内容を
破棄し、終了する
(Exit Discarding
Changes)

- 1 を押す、または を押し、「Exit」メニュー画面を選択します。
- 2 「Exit Discarding Changes」を選択し、 を押します。
設定値が変更されていない場合は、そのままBIOS Setupユーティリティが終了し、システムが起動します。
- 3 設定値が変更されている場合は次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Discard configuration changes and exit now?	
[Yes]	[No]

変更した設定値を保存せずに終了する場合は [Yes] を選択し、 を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面 : 日付、時間、FDDの設定を行います。
- Advancedメニュー画面 : I/O関係の動作設定などを行います。
- Securityメニュー画面 : パスワードの設定を行います。
- Powerメニュー画面 : コンピュータ起動時の電源設定を行います。
- Bootメニュー画面 : システムを起動するドライブの順番設定を行います。
- Exitメニュー画面 : BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

Mainメニュー画面

■ は初期値

*印は項目表示のみ

System Time(hh:mm:ss)	時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)	日付を設定します。
Legacy Diskette A	接続しているFDDのタイプを選択します。 Disabled : FDD未接続 720 kb 3 ¹ / ₂ : 3.5型720KB対応FDD 1.44/1.25 MB 3 ¹ / ₂ : 3.5型1.44MB対応FDD 2.88 MB 3 ¹ / ₂ : 3.5型2.88MB対応FDD
*Primary Master	本機に装着されているHDDの容量が自動的に表示されます。
*Secondary Master	[CD-ROM]と自動的に表示されます。
*System Memory	メインボード上に標準装備されているメモリ容量が自動的に表示されます。
*Extended Memory	メインボード上のDIMMスロットに拡張したメモリ容量が自動的に表示されます。

Advancedメニュー画面

Installed O/S	初期値 [PNP O/S] のまま使用します。
Reset Configuration Data	初期値 [No] のまま使用します。
Large Disk Access Mode	初期値 [DOS] のまま使用します。
Legacy USB Support	MS-DOSでUSBキーボードやUSBマウスを使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。

Advanced Chipset Controlサブメニュー画面

Graphics Aperture	初期値 [32MB] のまま使用します。
-------------------	------------------------

I/O Device Configurationサブメニュー画面

Serial Port A		<p>シリアルポート (COM1) の設定を行います。</p> <p>Auto :シリアルポートの設定を自動的にを行います。</p> <p>Enabled :シリアルポートの「Base I/O address」,「Interrupt」を個別に設定します。</p> <p>Disabled :シリアルポートを使用しません。</p>
	Base I/O address	<p>シリアルポートで使用するアドレスを設定します。</p> <p>3F8/2F8/3E8/2E8</p>
	Interrupt	<p>シリアルポートで使用するIRQ信号を設定します。</p> <p>IRQ3/IRQ4</p>
Parallel port		<p>パラレルポートの設定を行います。</p> <p>Auto :パラレルポートの設定を自動的にを行います。</p> <p>Enabled :パラレルポートの「Base I/O address」,「Interrupt」,「Mode」,「DMA channel」を個別に設定します。</p> <p>Disabled :パラレルポートを使用しません。</p>
	Base I/O address	<p>パラレルポートで使用するアドレスを設定します。動作モードにEPPを選択した場合は、表示されません。</p> <p>378/278/3BC</p>
	Interrupt	<p>パラレルポートで使用するIRQ信号を設定します。</p> <p>IRQ5/IRQ7</p>
	Mode	<p>パラレルポートの動作モードを設定します。本機に接続する周辺機器で指示がある場合に設定します。</p> <p>Output only :出力のみのモードに設定します。</p> <p>Bi-directional :双方向モードに設定します。</p> <p>EPP :EPPモードに設定します。</p> <p>ECP :ECPモードに設定します。</p>
	DMA channel	<p>動作モードに「ECP」を選択しているときのみ表示されます。ECPモードのときに使用するDMAチャンネルを設定します。</p> <p>DMA3 :DMAチャンネル3を使用します。</p> <p>DMA1 :DMAチャンネル1を使用します。</p>

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面は、BIOS Setupユーティリティ起動時およびシステム起動時にパスワードを設定することができます。パスワードを設定しておくことで、他人に無断でコンピュータを使用されたり、BIOSの設定を変更されたりするのを防ぐことができます。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Set Supervisor Password Set User Password	[Enter]が表示されている状態で[Enter]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。 User Passwordは、Supervisor Passwordを設定すると、パスワード設定が可能になります。
Password on boot	システム起動時のパスワード入力を要求するかどうかを設定します。 Disabled: 要求しません。 Enabled: 要求します。


BIOS Setupユーティリティ起動時に要求されるパスワード入力画面で、User Passwordを入力した場合は、設定できる項目が下記の項目に限定されます。

- 「Main」メニュー画面 - 「System Time」, 「System Date」
- 「Security」メニュー画面 - 「Set User Password」
- 「Exit」メニュー画面 - 「Exit Saving Changes」, 「Exit Discarding Changes」, 「Save Changes」




パスワードの設定

パスワードの設定、変更、解除は、次の手順で行います。手順はSupervisorパスワードをもとに記載していますが、Userパスワードも同様の手順で行います。

パスワードの設定方法は、次のとおりです。

- 1 「Set Supervisor Password」項目で、を押します。次の画面が表示されます。

Set Supervisor Password:	
Enter new password	[]
Confirm new password	[]

- 2 「Enter new password」欄にパスワードを入力し、を押します。パスワードは8文字まで入力できます。
- 3 「Confirm new password」欄に、確認のため手順2と同じパスワードを入力し、を押します。同じパスワードを入力しないと、エラーになります。
- 4 「Changes have been saved.」とメッセージが表示されたら、[Continue]が選択されている状態でを押します。これでパスワードの設定は終了です。



制限

登録したパスワードは、書き移して保管するなどして忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、Windowsの起動およびBIOSの設定変更ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、CMOS RAMを初期化することでパスワードをクリアすることができます。ただし、CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は、すべてクリアされます。

 p.167「CMOS RAMの初期化」

パスワードの変更

パスワードの変更方法は、次のとおりです。

- 1 「Set Supervisor Password」項目で、を押します。次の画面が表示されます。

Set Supervisor Password:	
Enter Current Password []
Enter New Password []
Confirm New Password []

- 2 「Enter Current Password」欄に今まで使用していたパスワードを入力し、を押します。
- 3 「Enter New Password」欄に新しく設定したいパスワードを入力し、を押します。
- 4 「Confirm New Password」欄に、確認のため手順3と同じパスワードを入力し、を押します。
- 5 「Changes have been saved.」とメッセージが表示されたら、[Continue] が選択されている状態で を押します。これでパスワードの変更は終了です。

パスワードの解除

パスワードの解除方法は、次のとおりです。

- 1 「Set Supervisor Password」項目で、| Set Supervisor Password: | |
| Enter Current Password [|] |
| Enter New Password [|] |
| Confirm New Password [|] |
- 2 「Enter Current Password」欄に今まで使用していたパスワードを入力し - 3 「Enter New Password」欄に何も入力せずに - 4 「Confirm New Password」欄に何も入力せずに - 5 「Changes have been saved.」とメッセージが表示されたら、[Continue] が選択されている状態で

Powerメニュー画面

Power Loss Control	電源スイッチを押さずに、AC電源供給時に本機を起動するかどうかを設定します。 Stay Off : AC電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On : 電源切断時に、AC電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。
USB S3 Wake Up Control	USBデバイスを使用して、本機をスタンバイ状態から復帰させるかどうかを設定します(USB2.0機能搭載モデルでは機能しません)。 Disabled : 復帰させません。 Enabled : 復帰させます。

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、起動するドライブの順番を設定します。コンピュータが順番にシステムを検出して、システムが見つかったドライブから起動します。

初期設定は、[1.Removable Device][2.CD-ROM Drive][3.Hard Drive]です。[4.Realtek Boot Agent]は、リモートブート機能を使用可能に設定すると表示されます。

 p.84「ネットワーク機能を使う」

ドライブを選択して **[+]** を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して **[-]** を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

1. Removable Device	FDDから起動します。
2. CD-ROM Drive	スリムドライブから起動します。
3. Hard Drive	HDDから起動します。
4. Realtek Boot Agent	ネットワークでつながれたサーバー上のOSを起動します。

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を保存します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目	購入時の設定	変更内容
Legacy Diskette A	Disabled 2.88MB 3 ¹ / ₂ 1.44/1.25MB 3 ¹ / ₂ 720kb 3 ¹ / ₂	Disabled 2.88MB 3 ¹ / ₂ 1.44/1.25MB 3 ¹ / ₂ 720kb 3 ¹ / ₂

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定	変更内容
Legacy USB Support	Disabled Enabled	Disabled Enabled

I/O Device Configurationサブメニュー画面

項目	購入時の設定	変更内容
Serial Port A	Auto Enabled Disabled	Auto Enabled Disabled
Base I/O address	3F8 2F8 3E8 2E8	3F8 2F8 3E8 2E8
Interrupt	IRQ3 IRQ4	IRQ3 IRQ4
Parallel Port	Auto Enabled Disabled	Auto Enabled Disabled
Base I/O address	378 278 3BC	378 278 3BC
Interrupt	IRQ5 IRQ7	IRQ5 IRQ7
Mode	Oytput only Bi-directional EPP ECP	Oytput only Bi-directional EPP ECP
DMA channel	DMA3 DMA1	DMA3 DMA1

Powerメニュー画面

項目	購入時の設定	変更内容
Power Loss Control	Stay Off Power On	Stay Off Power On
USB S3 Wake Up Control	Disabled Enabled	Disabled Enabled

Boot メニュー画面

項目	購入時の設定	変更内容
1		
2		
3		
4		

ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする
手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

再インストールとは

HDDをフォーマットして、Windowsやデバイスドライバなどのソフトウェアを新しくインストールしなおす作業のことを、本書では、「再インストール」と記載します。

再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合

HDD領域の構成を変更したい場合

重要事項


再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

弊社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。弊社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

Norton AntiVirus2002で、90日経過後に更新権を購入してウィルス定義ファイルの購読サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新権が無効になります。この場合、再度更新権を購入(有償)していただく必要があります。あらかじめご了承ください。

 『Norton AntiVirus2002をご使用前に』

バックアップディスクを作成していない場合は、必ず作成しておいてください。再インストールすると、バックアップディスクを作成することができなくなります。

 p.24「バックアップディスクの作成」

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

HDD上の重要なデータは、FDなどの別のメディアに、必ずバックアップしておいてください。再インストールするときは、HDDをフォーマットするため、Cドライブのデータはすべて消去されます。

ソフトウェアの再インストールを行う

本章では、再インストールの方法について記載しています。

必要なメディア

再インストールするには、次のメディアが必要です。

リカバリCD

Windowsが登録されているCD-ROMです。

Windows XPは、Disc1とDisc2の2枚組になっています。

ドライバCD


各種デバイスドライバ、Adobe Acrobat Reader、Norton AntiVirus2002が登録されているCD-ROMです。

マウスドライバCD

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

バックアップFD作成ユーティリティで作成したFD

Windowsのセットアップ終了後に作成したFDです。作成していない場合は、必ず作成してください。

 p.24「バックアップディスクの作成」

そのほか必要なメディア

お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。



インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

システム構成

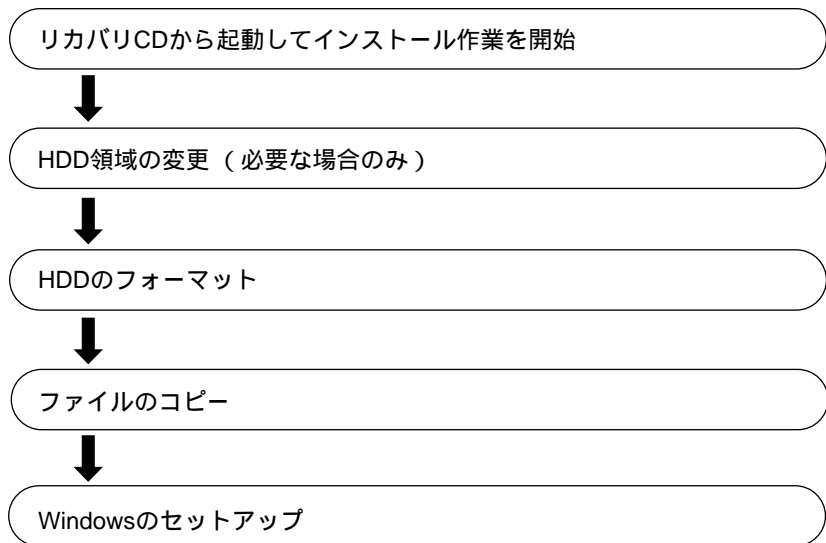
本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム	購入時のHDDは、NTFSを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールは、必ずNTFSを使用してください。
ドライブ名	本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。 CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。 Aドライブ:FDD Cドライブ:HDD Dドライブ:CD-ROMドライブ
入力文字	インストール手順中の入力文字の表記は、すべて大文字で記載していますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。
管理者権限でログイン	デバイスドライバのインストール作業は、コンピュータの管理者(Administrator)でログインして行ってください。
Windows CD-ROMを要求されたら	デバイスドライバ類のインストール時に「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。本書でなにも記載がない場合は、リカバリCD(Windows XPではリカバリCD Disc1)をセットしてください。
メーカー情報	Windowsのインストールを行うと、次の場所に表示されているメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。 Windows 2000 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「システムのプロパティ」 Windows XP : [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「システムのプロパティ」
各種設定の確認	ネットワークやモデム、インターネットなど使用している場合は、Windowsをインストールすると、再設定が必要になります。設定を書き移しておいてください。

Windowsのインストール

インストールの流れ

Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、次ページからの手順に従ってください。



HDD領域の変更


HDDを分割して使用したい場合は、「Windowsのインストール」作業中にHDD領域の変更を行います。Windowsをインストールする領域は、作業中にフォーマットを行いますが、残りの領域（未設定領域）はインストール終了後にWindowsの「ディスクの管理」で設定します。

 p.138「領域の作成」

Windows 2000 Windows 2000のインストールは、次の手順で行います。

インストール
モデルの場合

- 1 「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順3の画面が表示されるまで少し時間がかかります。一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。
- 3 「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。…」と表示されます。
通常は「C:」を選択して、を押します。
HDD領域を変更する場合は (削除) を押して、下記の手順①～⑥を行います。


<HDD領域を変更する場合>
 - ① 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、を押します。
 - ② 「MBディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたらを押します。
 - ③ 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、 (パーティションの作成)を押します。
 - ④ 「MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値を入力して、を押します。
 - ⑤ 「次の一覧にはこのコンピュータ上の…」と表示されたら、「C: 新規(未フォーマット)」を選択してを押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域の作成を行ってください。
 p.138「領域の作成」
 - ⑥ 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択してを押します。
手順7に移ります。

- 4 「別のオペレーティングシステムがあるパーティションに...」と表示された場合は を押します。
- 5 「...にWindows 2000をインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択し、 を押します。
「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、上書きインストールになります。
- 6 「警告:このドライブをフォーマットすると...」と表示されたら、 を押します。
- 7 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。
- 8 「ライセンス契約」と表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しません」を選択するとWindows 2000のインストールが中止されます。
- 9 「Windows 2000 Professionalセットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従ってセットアップを行います。
 - ソフトウェアの個人用設定
 - ここでは「名前」を必ず入力してください。
 - コンピュータ名とAdministratorのパスワード
 - 必要に応じてコンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
 - 日付と時刻の設定
 - コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- 10 「Windowsへログオン」画面が表示されます。設定したAdministratorのパスワードを入力します。
手順9でパスワードを設定しなかった場合は、そのまま をクリックします。
- 11 Windows 2000のデスクトップが表示されたら、CD-ROMを取り出します。これでWindows 2000のインストールは終了です。






Windows XP
インストール
モデルの場合

Windows XPのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc1」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順3の画面が表示されるまで少し時間がかかります。一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。
- 3 「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。…」と表示されます。
通常は「C:」を選択して、を押します。
HDD領域を変更する場合は (削除)を押して、下記の手順①～⑥を行います。

< HDD領域を変更する場合 >
 - ① 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、を押します。
 - ② 「 MB ディスク × × から次のパーティションを削除します。…」と表示されたらを押します。
 - ③ 「次の一覧にはこのコンピュータ上の…」と表示されたら、 (パーティションの作成)を押します。
 - ④ 「 MB ディスク × × に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値を入力して、を押します。
 - ⑤ 「次の一覧にはコンピュータ上の…」と表示されたら、「C : パーティション1(未フォーマット)」を選択してを押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域の作成を行ってください。
 p.138「領域の作成」
 - ⑥ 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択してを押します。
手順7に移ります。

- 4 「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示された場合は を押します。
- 5 「...にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して を押します。
「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、上書きインストールになります。
- 6 「警告:このドライブをフォーマットすると…」と表示されたら、 を押します。
- 7 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。
- 8 「Windows XP ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindows XPのインストールが中止されます。
- 9 「Windows XP セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って設定を行います。
 - ソフトウェアの個人用設定
 - ここでは「名前」を必ず入力してください。
 - コンピュータ名(Windows XP Home Edition)または
コンピュータ名とAdministratorのパスワード
(Windows XP Professional)
 - コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
 - 日付と時刻の設定
 - コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
 - ワークグループまたはドメイン名(Windows XP Professional)
 - ネットワーク管理者の指示に従って必要事項を入力します。

- 10 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。
- 11 「モニタの設定」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。
- 12 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下のをクリックします。
- 13 「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下にある (省略)をクリックします。
- 14 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けてをクリックします。
- 15 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力してをクリックします。
- 16 「設定が完了しました」と表示されたら、をクリックします。
- 17 Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、CD-ROMを取り出します。これでWindows XPのインストールは終了です。

デバイスドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載しているデバイスのドライバを一括してインストールします。

インストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。

- 2 表示された項目から「一括インストール」を選択して「開始」をクリックします。
- 3 「ご注意」画面が表示されます。内容をよくお読みになり「OK」をクリックします。
- 4 表示されたドライバを確認して「インストール開始」をクリックします。インストールするドライバが自動的に検出されます。
- 5 「確認」画面が表示されたら「OK」をクリックします。各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには数分かかります。
- 6 「インストールの完了」画面が表示されます。内容をよくお読みになり「OK」をクリックします。
- 7 「Windowsの再起動」画面が表示されたら「はい」をクリックします。
- 8 Windowsが再起動します。Windows 2000インストールモデルの場合はこれでデバイスドライバのインストールは終了です。

Windows XPインストールモデルの場合は、以降の手順が必要です。
Windows 2000インストールモデルの場合は必要ありません。
- 9 「スタート」-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 10 「名前」に次のとおり入力して「OK」をクリックします。
D:¥DOTNETFX¥SETUP.EXE（薄型ドライブがDドライブの場合）
- 11 「セットアップ」画面で「今すぐインストール」をクリックします。
- 12 インストール終了後に「今すぐ再起動」をクリックします。
Windows XPが再起動するとデバイスドライバのインストールは終了です。

LCDの設定

本機で使用しているLCDの種類を設定します。

Windows 2000 の場合 Windows 2000で本機のLCDを設定する方法は、次のとおりです。

- 1 「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブ -[詳細]-「モニタ」タブをクリックします。
- 3 「モニタの種類」から1番上の(既定のモニタ)を選択して「プロパティ」をクリックします。
- 4 「ドライバ」タブ -[ドライバの更新]をクリックします。
- 5 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面で「次へ」をクリックします。
- 6 「このデバイスの既知のドライバを表示して...」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 7 「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」にチェックを付けます。
- 8 一覧から次のディスプレイを選択して「次へ」をクリックします。
製造元:「標準モニタの種類」
モデル:「Digital Flat Panel (1280 x 1024)」
- 9 「次のハードウェアデバイスのドライバをインストールします。」と表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 10 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面が表示されません。「完了」をクリックします。
- 11 「画面のプロパティ」を閉じます。これでディスプレイの設定は終了です。

Windows XPの
場合

Windows XPで本機のLCDを設定する方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」をクリックします。
- 2 [詳細設定]-「モニタ」タブ-[プロパティ]をクリックします。
- 3 「ドライバ」タブ-[ドライバの更新]をクリックします。
- 4 「ハードウェアの更新ウィザードの開始」画面で「一覧または特定の場所から...」を選択して「次へ」をクリックします。
- 5 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択して「次へ」をクリックします。
- 6 「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外します。
- 7 一覧から次のディスプレイを選択して「次へ」をクリックします。
製造元:「標準モニタの種類」
モデル:「Digital Flat Panel(1280×1024)」
- 8 「ハードウェアの更新ウィザードの完了」と表示されたら、「完了」をクリックします。
- 9 「画面のプロパティ」を閉じます。これでディスプレイの設定は終了です。

マウスドライバのインストール

ホイール付きマウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
正しくセットされると自動的に「設定言語の選択」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
自動的に「設定言語の選択」画面が表示されない場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に次のとおり入力し、[OK] をクリックします。
D:¥SETUP
- 2 「インストール先の選択」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 4 「InstallShield Wizardの完了」と表示されたら、「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」にチェックが付いた状態で [完了] をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました...」と表示されます。[はい] をクリックしてマウスの設定を行います。
これでマウスドライバのインストールは終了です。

Adobe Acrobat Readerのインストール

Adobe Acrobat Readerのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「Adobe Acrobat Readerのインストール」を選択して「開始」をクリックします。
- 3 「Acrobat Readerのセットアップ」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 4 「インストール先の選択」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 5 「情報」画面が表示されたら、「OK」をクリックします。
これでAdobe Acrobat Readerのインストールは終了です。

Norton AntiVirus2002のインストール

Norton AntiVirus2002をインストールします。本機に添付の『Norton AntiVirus2002をご使用の前に』をご覧ください。

そのほかの作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域は、そのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

Windowsの「ディスクの管理」は、次の場所にあります。

Windows 2000 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理*」

Windows XP : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理*」

* 画面左側の「記憶域」の下にあります。

ユーザーズ マニュアルの インストール

『ユーザーズマニュアル』(本書)のPDFファイルをインストールします。

- 1 「マニュアルディスク1」をFDDにセットします。
- 2 [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して [OK] をクリックします。
A: ¥SETUP
- 4 以降は画面の指示に従います。
セットアップが終了するとデスクトップ上に「ユーザーズマニュアル」アイコンが表示されます。

SBSIの
インストール
(Windows XP
の場合)

Windows XPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「ステップバイステップインタラクティブ(SBSI)」をインストールします。
インストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc2」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥SBSI¥SETUP¥SETUP
- 4 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
- 6 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら、「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。
- 7 「この登録情報は正しいですか？」と表示されたら、入力した「名前」と「会社名」を確認して[はい]をクリックします。
- 8 「セットアップが完了しました。・・・」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 9 「Readme」ファイルが表示されます。内容を確認したら右上にある☒をクリックします。
- 10 [スタート]からWindowsを再起動します。Windowsが再起動したら、ステップバイステップインタラクティブのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、バックアップFD作成ユーティリティで作成したFDや、あらかじめオプション類に添付されていたメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション類に添付のマニュアルをご覧ください。



参考

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

USB対応機器を使用する場合	: USB機器に添付のドライバ
プリンタを使用する場合	: プリンタに添付のドライバ

こんなときは

困ったときの確認事項と対処方法
について説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。



参考

ホームページのサポート情報について
弊社ホームページには、お客様からよく寄せられる質問や技術情報などを掲載しています。本章とあわせてご覧ください。アドレスは『サポートサービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

コンピュータ本体の不具合



制限

電源を切ってから入れなおす場合には、入れなおすまでに20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れると、電源が異常と判断され、正常にシステムが起動しなくなることがあります。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

電源コードが正しく接続されているか確認します。

 p.10「コンピュータの設置」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を電源コンセントに接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象


起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。


確認と対処


コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to resume, F2 to Setup


 **F2** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

 p.111「BIOS Setupユーティリティの終了」


 **F1** を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

起動時にエラーメッセージが表示される場合には、メッセージ内容を確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアやソフトウェアに問題が発生している可能性があります。問題が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.160「警告メッセージが表示されたら」

ビープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.160「警告メッセージが表示されたら」

BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。

 p.110「設定値をもとに戻すには」

BIOSの設定値を初期値に戻しても問題が解消されない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。

 p.167「CMOS RAMの初期化」

省電力機能に関する不具合

現象 正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない

確認と対処 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。


省電力モードから復帰できない場合は、**Ctrl**+**Alt**+**Delete**を押してコンピュータを再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。

省電力モード時にPCカードを抜き差しすると、正しく復帰できません。**Ctrl**+**Alt**+**Delete**を押して、本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存データは、すべて消失します。

キーボードの不具合

現象 数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処 数値キーは **Num Lock** の状態により機能が変わります。**Num Lock** を押してオンの状態にします。

 p.35「キーボードを使う」

現象 どのキーを押しても応答がない。

確認と対処 キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は電源が入っていない状態で行ってください。

 p.12「キーボードとマウスの接続」

マウスを操作してください。マウスで操作できる場合があります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性があります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性があります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.31「リセット」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

直接入力モードで日本語を入力することはできません。

Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。

Windows上で次のキーボードが選択されているか確認します。

101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

キーボードの種類は次の場所で確認します。

Windows 2000の場合 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「キーボード」 - 「ハードウェア」タブ

Windows XPの場合 : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとその他のハードウェア」 - 「キーボード」 - 「ハードウェア」タブ


マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処


マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.12「キーボードとマウスの接続」

キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合があります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性があります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性があります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。


 p.31「リセット」

現象

OSやアプリケーションソフトでマウスポインタが表示されない。

確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.12「キーボードとマウスの接続」


MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されていません。

現象

マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処

マウスのクリーニングを行ってください。

 p.162「マウスのお手入れ」

LCDの不具合

現象

LCD画面が真っ暗で何も表示されない。

確認と対処

表示装置の設定がLCD画面を表示する設定になっていない(外付けディスプレイのみに表示)可能性があります。表示装置の設定を変更してください。

 p.53「表示装置の切り替え」

コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。ピーブ音が鳴った場合は、音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

しばらく放置しておくと表示が消えてしまう。

確認と対処

省電力モードになっている可能性があります。キーボードまたはマウスを操作してみてください。

 p.79「省電力機能を使う」

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。

確認と対処

使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。次ページを参照して、セーフモードで起動し直してみてください。

Windows 2000 をセーフモードで起動する

Windows 2000をセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows 2000を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、約20秒間放置したあとに電源を入れます。
- 2 画面下に、次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8** を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。
Windows 2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください。
- 3 「Windows 2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**←**を押します。
以降は画面の指示にしたがってください。

Windows XP をセーフモードで起動する

Windows XPをセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows XPを基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、約20秒間放置した後、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**F8** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**←**を押します。
以降は画面の指示にしたがってください。

現象

画面がちらつく。

確認と対処

LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、「BIOS Setupユーティリティ」の画面でも同様の現象が発生するか確認してみてください。「BIOS Setupユーティリティ」の画面でも同様の現象が発生する場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

FDDの不具合

現象

FDDに正常にアクセスできない。

確認と対処

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

ディスクの挿入
A:ドライブにディスクを挿入してください。
[キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

使用しているFDが、本機で利用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。

 p.40「FDDを使う」

別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、読み書きできないFDに異常があることが考えられます。

別のFDでも読み書きできない場合には、「BIOS Setupユーティリティ」のFDDに関する項目がすべて初期値となっているか確認してください。

現象 FDに書き込みできない。

確認と対処 ライトプロテクトされていないか確認します。
☞p.43「ライトプロテクト」

現象 FDDから異常な音がする。

確認と対処 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処 ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、ソフトウェアの再インストールを実行してください。

☞p.121「ソフトウェアの再インストール」

実行しても改善されない場合には販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

CD-ROMドライブの不具合

本機に、CD-ROMドライブの代わりに、CD-R/RWドライブなどのドライブ装置が装着されているときは、ドライブ装置に添付されているマニュアルも参照してください。

現象

セットしたCDにアクセスできない。

確認と対処

CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。

CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがいないか確認してください。

別のCD-ROMにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。

特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。

セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

CDをセットすると画面が開いてしまう。

確認と対処

セットしたCDに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。CDに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や[×]をクリックして、1度画面を閉じます。その後「マイコンピュータ」のCD-ROMドライブを右クリックして、[開く]を選択します。

現象

セットしたCDが読み込めない。

確認と対処

CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windowsには音楽CDなどを再生するソフトウェアとして「Windows Media Player」が標準で添付されています。

現象

音楽用CDの音が聞こえない。

確認と対処

スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリューム調節ダイヤルで音量を調節してみてください。

 p.60「音量を調節するには」

アプリケーションソフトの不具合

現象 アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

確認と対処 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象 アプリケーションソフトが起動しない。

確認と対処 アプリケーションソフトの起動に必要なシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象

表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

本機では、メインメモリの1MBを自動的にシステムリソースに割り当てるため、メモリ容量は、システムリソースに割り当てた1MBを差し引いて表示されます。

メモリを増設した場合は、メモリのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

PCカードの不具合

現象

PCカードを装着しても使用できない。

確認と対処

PCカードが、対応するPCカードスロットに正しく装着され、認識されているか確認してください。

PCカードを使用するために必要なドライバやアプリケーションソフトがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

外部装置を追加するためにPCカードを装着した場合、外部装置とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

本機で使用可能なPCカードかどうか確認してください。

 p.48「PCカードを使う」

プリンタの不具合

現象 印刷できない。

確認と対処 プリンタの電源が入っているか、印刷するための準備が整っているかを確認してください。

プリンタのコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

Windowsでは、プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

スピーカの不具合

現象 システムは正常に動作しているのに音がしない。

確認と対処 スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリューム調節ダイヤルで音量を調節してみてください。

 p.60「音量を調節するには」

スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

インストール時の不具合

現象

インストールが本書の手順どおりにできない。

確認と対処

本書では、インストール手順中のCD-ROMドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。CD-ROMドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。CD-ROMドライブのドライブレターを確認してください。

CD-ROMドライブのドライブレターの確認は「マイコンピュータ」で行います。

本書のインストール手順は購入時のシステム構成を前提にしています。インストールはBIOSの設定と、システム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

本書のインストール手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点はインフォメーションセンターまたはテクニカルセンターにお問い合わせください。

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

FAXモデムの不具合(FAXモデム機能搭載モデル)

現象 「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

確認と対処 「モデムのプロパティ」で「詳細情報」または「モデムの照会」を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。

- ・ Windows 2000の場合
[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「診断」タブの「モデムの照会」をクリックします。
- ・ Windows XPの場合
[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「診断」タブの「モデムの照会」をクリックします。

現象 インターネットへ接続できない

確認と対処 モジュラコードが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。

次の場所で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認します。

- ・ Windows 2000の場合
[スタート]-「設定」-「ネットワークとダイヤルアップ接続」-「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
- ・ Windows XPの場合
[スタート]-「接続」-「接続(任意の名前)」-[プロパティ]-「ダイヤル情報」をクリックします。

次の方法でダイヤルの設定を変更してみてください。

- ・ Windows 2000の場合
[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「全般」タブ-「ダイヤルの管理」項目-「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

・ Windows XPの場合

[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「モデム」タブ-「ダイヤルの管理」項目-「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

ユーザー名や、パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。

- ・ 全角の文字を使用していないか。全角文字は使用できません。
- ・ 大文字と小文字をきちんと区別しているか。
- ・ 数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0とアルファベットのOなど。
- ・ ユーザー名とメールアドレスを混同していないか。
- ・ パスワードとメールパスワードを混同していないか。

ネームサーバーのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

次の手順でネームサーバーのIPアドレスを確認します。

・ Windows 2000の場合

- ① [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「ネットワークとダイヤルアップ」-「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
- ② 「ネットワーク」タブ-「インターネットプロトコル」を選択して「プロパティ」でDNSサーバーアドレスを確認します。

・ Windows XPの場合

- ① [スタート]-「接続」-「接続(任意の名前)」-[プロパティ]をクリックします。
- ② 「ネットワーク」タブ-「インターネットプロトコル(TCP/IP)」-[プロパティ]でDNSサーバーのアドレスを確認します。

原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合は、プロバイダの電話番号を変更してみます。接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときはこの方法で接続できる場合があります。

次の理由で、接続できないことがあります。時間を置いて接続してみてください。

- ・ 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
- ・ 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
- ・ プロバイダのサーバーが停止している。

現象

V.90通信方式で通信できない。

確認と対処

回線状況によって、V.90通信方式で接続できない場合があります。V.90通信方式のほかにはx2方式がありますが、x2方式のモデムとは、V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。またお使いになっている、最寄りの電話局の交換機からプロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合のみ、V.90通信方式で接続することができます。

PBX回線では、V.90通信方式では接続できません。V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。

現象

V.90、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。

確認と対処

V.90、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に、通信速度を下げている場合があります。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明
System CMOS checksum bad - configuration used	CMOS RAMのデータが壊れているか、不正な値が設定されています。BIOS Setupユーティリティを起動して値を再設定してください。
Diskette drive A error	FDDが正しく接続されていないか、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Failure Fixed Disk	HDDが動作していないか、正しく認識されていません。HDDが正しく装着されているかを確認し、BIOS Setupユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。
Keyboard error	キーボードにエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Keyboard controller Failed	キーボードコントローラにエラーが発生しました。キーボードが正しく接続されているかを確認し、電源を入れ直します。キーボードを取り外しても問題が解決しない場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Operating system not found	オペレーティングシステムが見つかりません。HDDから起動する場合は、BIOS Setupユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。FDDから起動する場合は、挿入したフロッピーディスクがシステムディスクではない可能性があります。
System RAM Failed at offset	システムRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Shadow RAM Failed at offset	シャドウRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Extended RAM Failed at address line	拡張メモリに不具合があるか、正しく認識されていません。BIOS Setupユーティリティを起動してメモリを再検出します。
Previous boot incomplete - Default configuration used	前回の自己診断テストでのエラーがそのままです。セットアップには前回の値を使用するため、値が不正確な場合、このまま起動しても再度エラーになります。BIOS Setupユーティリティを起動して設定値を確認します。間違いがあれば訂正します。
System cache error - Cache disabled	キャッシュメモリにエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
System timer error	システムタイマーでエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Real time clock error	内蔵クロックにエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

付 録

お手入れ方法、リチウム電池の交換、
CMOS RAMの初期化などについて
説明しています。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体の外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面の
お手入れ

LCD画面は、乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。

クリーニングは、コンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行います。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

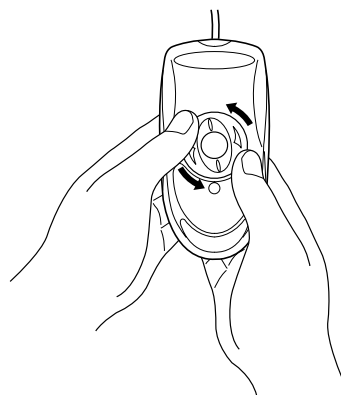


警告

小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。

マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

- 1 マウス底面のボールフレームを外します。
ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



- 2 マウスボールを取り出します。
マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。
- 3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5 ボールフレームをもとどおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。



制限

マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、本体内部のリチウム電池により保持されます。

本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

CR2032(または同等品)



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



リチウム電池の交換作業は、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。




本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電気が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

リチウム電池の交換は、次の手順で行います。

1

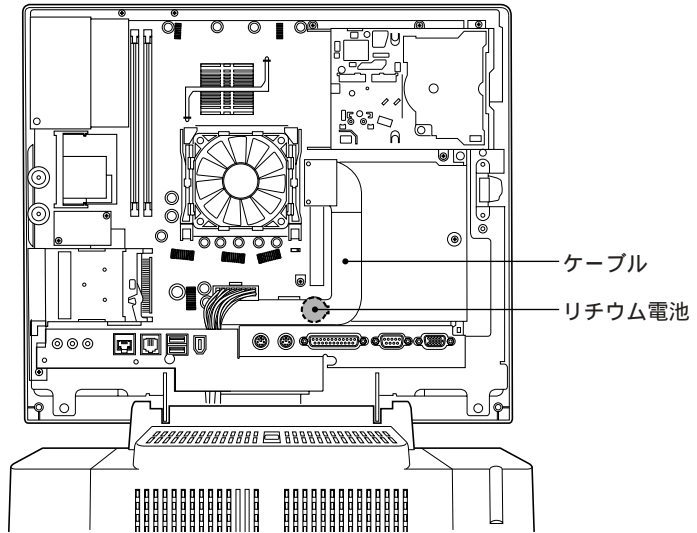
背面カバーを外します。必ず電源コードも外します。

 p.98「背面カバーの取り外し・取り付け」

2

リチウム電池の位置を確認します。

リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります(ケーブルの下に隠れています)。



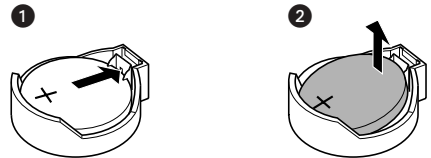
3

片方の手でケーブルを持ち上げ、もう片方の手でリチウム電池を抜きます。

① 電池ホルダの留め金を押します。

(電池ホルダの形状は機種により異なる場合があります。)

② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。

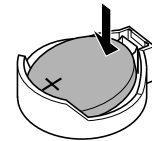


4

新しいリチウム電池を取り付けます。


刻印面(+側)が上側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。

取り付けるときには、「カチッ」と音が鳴ります。




5

背面カバーを装着します。

 p.98「背面カバーの取り外し・取り付け」

6

コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

- 7 コンピュータの電源を入れ **F2** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
 p.107「BIOS Setupユーティリティの起動」
- 8 **F9** を押し、「Load Setup Defaults」を実行します。
- 9 日付、時刻やそのほか変更がある場合は、再設定を行います。
- 10 「Exit」メニュー画面 - 「Exit Saving Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れたり、設定を誤ったりして、コンピュータが起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作可能にすることができます。



警告

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



注意

CMOS RAMの初期化作業は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



制限

CMOS RAMを初期化すると現在の「BIOS Setupユーティリティ」の設定情報がクリアされます。

CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。

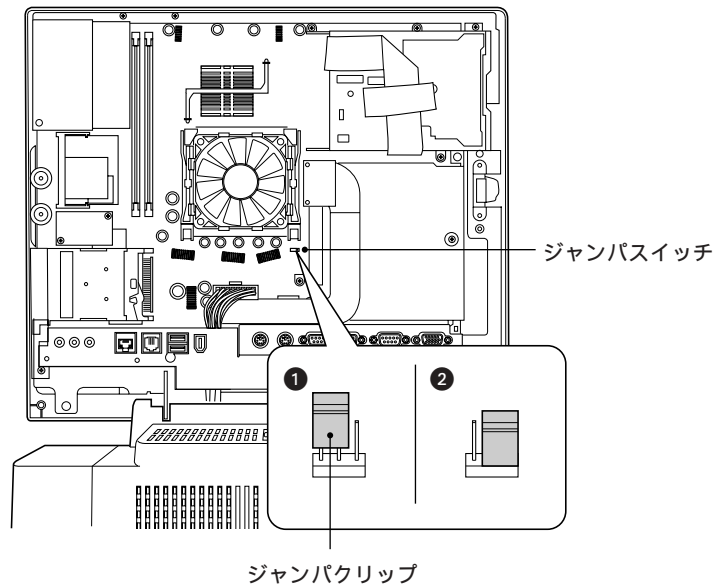
 p.120「BIOSの設定値」

本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電気が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。


CMOS RAMの初期化は、次の手順で行います。

- 1 背面カバーを外します。このとき、必ず電源コードも外します。
☞ p.98「背面カバーの取り外し・取り付け」

- 2 メインボード上のジャンプスイッチを次のとおり変更します。
ジャンパクリップは、ピンセットなどを使って抜き差ししてください。先の鋭いものを使用する場合には、メインボードに傷を付けないように注意してください。
- ① ジャンパクリップが左側2本のピンに差し込まれています。このジャンパクリップを抜き取ります。
 - ② ジャンパクリップを右側2本のピンに差し込みます。



- 3 このまま5秒程度、放置します。
- 4 ジャンプスイッチの設定をもとに戻します。
ジャンパクリップを左側2本のピンに差し込み直します。
- 5 背面カバーを装着します。
☞ p.98「背面カバーの取り外し・取り付け」
- 6 外したケーブル類をもとどおりに接続します。

- 7 コンピュータの電源を入れ **F2** を押して、BIOS Setupユーティリティを起動します。
 p.107「BIOS Setupユーティリティの起動」
- 8 **F9** を押し、「Load Setup Defaults」を実行します。
- 9 日付、時刻やそのほか変更がある場合は、再設定を行います。
- 10 「Exit」メニュー画面 - 「Exit Saving Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

ATコマンドの使用

(FAXモデム機能搭載モデルのみ)

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本モデムにはモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。

本機で使えるATコマンドの一覧(ATコマンドリファレンス)は、添付の「ドライバCD」の「MODEM」フォルダにPDFファイルとして登録されています。(英文)

ATコマンドの使用

通信ソフトウェア(Internet ExplorerやOutlook Expressなど)でモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。

次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は、次の場所にあります。

Windows 2000の場合

「コントロールパネル」 「電話とモデムのオプション」 「モデム」タブ [プロパティ] 「詳細」タブ 「追加設定」

Windows XPの場合

「コントロールパネル」 「プリンタとその他のハードウェア」 「電話とモデムのオプション」 「モデム」タブ [プロパティ] 「詳細」タブ 「追加設定」

現象	AT コマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を工場出荷時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線(パルスダイヤル)でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線(トーンダイヤル)でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=34」(V.34) または 「AT+MS=90」(V.90) 使用したい通信方式に応じて 設定。
接続が不安定(10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう)	
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは、2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。

例:ATM0+ATX3=ATM0X3

FAXモデムボードを取り外すには

(FAXモデム機能搭載モデルのみ)

本機には、内蔵FAXモデムボードが搭載されています。内蔵FAXモデムボードを取り外したい場合は、次の方法で取り外すことができます。



電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。




分解作業は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



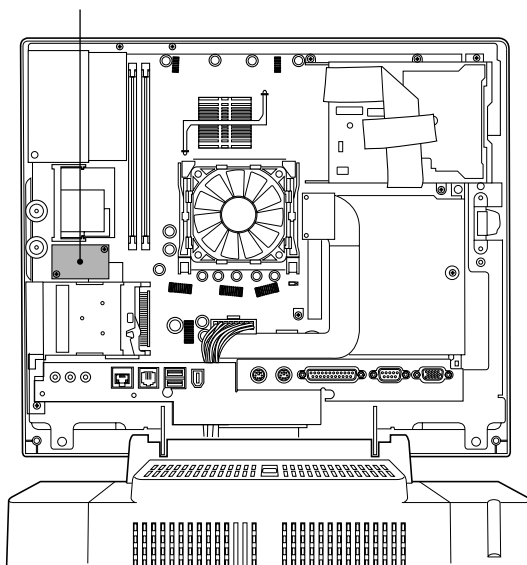
本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電気が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

- 1 背面カバーを取り外します。このとき必ず電源コードも外します。

 p.98「背面カバーの取り外し・取り付け」

- 2 FAXモデムボードの位置を確認します。

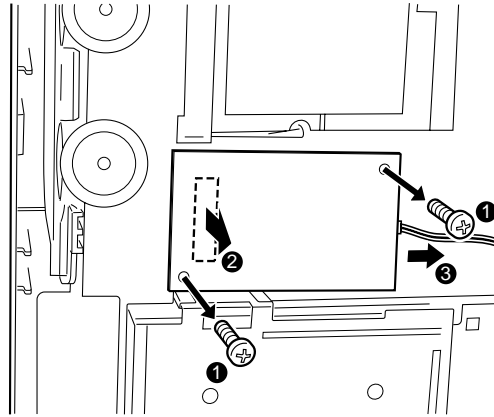
FAXモデムボード



3


FAXモデムボードを取り外します。

- ① ネジ(2本)を外します。
- ② ボードを外します。ボード左側がコネクタと接続されています。
- ③ モデムケーブルをコネクタから外します。



4

背面カバーを取り付けます。

 p.98「背面カバーの取り外し・取り付け」

5

外したケーブル類をもとどおりに接続します。

機能仕様一覧

CPU		インテルPentium 4プロセッサ	インテルCeleronプロセッサ
メモリ	ROM	BIOSその他(4Mbit FLASH ROM使用)	
	メインメモリ	最大1GBまで増設可能(DIMMスロット×2)	
キーボード		日本語対応106コンパクトキーボード	
マウス		ホイール付きPS/2マウス	
ビデオ	コントローラ	ATI MOBILITY RADEON 7500	
	バス	AGPバス	
	ビデオメモリ	DDR 32MB	
画面表示	液晶タイプ	17型TFT SXGAカラー液晶 最大1280×1024ドット、True Color(32ビット)	
	外部ディスプレイ接続	最大1600×1200 True Color(32ビット)	
サウンド	コントローラ	AC'97対応	
	バス	PCIバス	
記憶装置	FDD	3.5型FDD1基内蔵	
	HDD	IDE HDD1基内蔵	
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブ1基内蔵	
インタフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)	
	シリアルインタフェース	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)	
	VGAインタフェース	1(アナログRGB ミニD-SUB 15ピン)	
	キーボードインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	サウンドインタフェース	ステレオスピーカ内蔵(2W+2W) ライン入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1	
	USBインタフェース	4(背面×2、右側面×2) USB2.0対応(USB2.0機能搭載モデル)	
	IEEE1394インタフェース	1(Mini PCI 6ピン 電源供給なし) 1(IEEE1394機能搭載モデル)	
	FAXモデムインタフェース	FAXモデム*(RJ-11、V.90対応) 1(FAXモデム機能搭載モデル)	
	ネットワークインタフェース	ネットワーク(RJ-45 10Base-T/100Base-TX自動認識)	
ワイヤレスLANインタフェース	ワイヤレスLAN(IEEE802.11b対応、2.4GHz、11Mbps) 1(ワイヤレスLAN機能搭載モデル)		
PCカードスロット		2スロット TypeII ×2または TypeIII ×1 (PC Card Standard準拠CardBus対応)	
カレンダー時計		内蔵 内蔵電池によりバックアップ)	
電源容量		160 WDC	
入力電圧		入力AC100V ± 10V, 50/60Hz	
温湿度条件		温度:10 ~ 35 湿度:20 ~ 80%(ただし、結露しないこと)	
外形寸法(幅×奥行き×高さ)		本体:約395 × 179(中央部)×419 mm(突起部除く)	
重量		本体:約10.2Kg	
消費電力	定格消費電力	228WAC	
	待機時消費電力	5WAC	

* 認定番号ラベルは、コンピュータの背面に貼付されています。

ワイヤレスLAN(ワイヤレスLAN機能搭載モデル)

データ転送速度	11M/5.5M/2M/1M(bps)(自動切替) ¹
準拠規格	ARIB STD-T66(小電力データ通信システム規格) IEEE802.11b(2.4GHzワイヤレスLAN標準プロトコル)
伝送方式	DS-SS方式
伝送距離(理論値)	屋内におけるアクセスポイントとの通信時 ² 1Mbps : 115m 2Mbps : 40 ~ 90m 11Mbps : 25 ~ 50m
セキュリティ	128/40bit WEP対応
使用無線チャンネル	1 ~ 11ch
RF周波数帯域	2.4GHz帯全域(2.4 ~ 2.4835GHz)

¹ : IEEE802.11b規格による速度(理論値)であり、実効速度とは異なります。

² : 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、OSなどの使用条件によって短くなります。

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略です。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

AGP

CPUとビデオチップを接続するための拡張ポートのことです。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもの。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

使用例 BIOSの設定を行ってください。
= BIOS Setupユーティリティを実行して設定を変更してください。

類義語 CMOS RAM

BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

CPU

Central Processing Unitの略です。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

DDR SDRAM

「DDR」とは、「Double Data Rate」の略で、従来のSDRAMよりもデータ転送が2倍速くなります。

DMA転送

Direct Memory Accessの略。CPUを介さずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うことです。

使用例 DMA転送により高速なデータの出入力が可能です。

DMAチャンネル

DMAでデータを転送する場合の通り道のこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャンネルを使用するように設定する必要があります。

使用例 サウンドカードで使用するDMAチャンネルを設定する。

DRAM(ディーラム)

メモリの種類です。Dynamic Random Access Memoryの略です。

メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステムのことです。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます(FAT16では2GBまで)

HDD領域

HDDの容量を用途に合わせて確保したスペースのことで、パーティションとも呼びます。HDD1台にHDD領域は複数作成することができます、それぞれドライブとして利用できます。

I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

IDE

Integrated Device Electronicsの略です。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。HDDだけでなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

使用例 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

IEEE1394

コンピュータと周辺機器をシリアル通信で接続するための規格のことです。USBインタフェースより、データ転送速度が速く、大容量のデータ転送も可能です。

IRQ

Interrupt Requestの略です。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0 ~ IRQ15の16種類が用意されています。

使用例 サウンドカードではIRQ7を使用します。

ISDN

NTTが提供する高速デジタル回線のことです。普通の電話回線よりもデータを高速で送信できるので、コンピュータ間のデータ送受信などに多く使用されています。また、ISDNを導入することにより、一本で二回線分を使用することができます。

LAN

Local Area Networkの略で、会社内や学校内など比較的限られたエリア内のコンピュータ同士をつなげた状態のことです。

MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

OS

Operating Systemの略です。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

PCIバス

拡張バス的一种です。一般的に採用されている拡張バスで、ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。

高速性を要求される拡張カードに使用されます。

RAM(Random Access Memory)

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

ROM(Read Only Memory)

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持し続けます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

RS-232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

SDRAM

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

TA(ターミナルアダプタ)

コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

USB

Universal Serial Busの略。比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格のことです。

Ultra ATA100

IDEインタフェース上において100MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

VGA

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能。DOS/V機の基本的な表示機能です。

アカウント

ネットワーク上で利用者を識別するための名前(記号や番号)のことです。

アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

使用例 HDDにアクセスする。=HDDのデータを読み書きします。

アクセスポイント

インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

使用例 HDDアクセスランプ

アップロード

手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算など目的のはっきりしたソフトウェアのことです。

インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

使用例 サウンドドライバをインストールします。

インタフェース

コンピュータと周辺装置の間でデータを入力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

使用例 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

オフライン

コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

オンライン

他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

解像度

画面表示の細かさのことです。

使用例 1024×768ドットの解像度で表示します。

外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

類義語 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

起動する

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

類義語 立ち上げる。

キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

使用例 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

使用例 次のコマンドを入力してください。

サーバ

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

使用例 システムを起動する。=コンピュータの電源スイッチを入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

ダイヤルアップ接続

モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するためにプロバイダに接続することを言います。

ダウンロード

遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

ディザリング

複数の画素を組み合わせ、1つの画素とみなすことにより、人間に中間色のように見せかける方法のことです。

ディスプレイ

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニタ

ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

使用例 1024×768ドットの解像度=画面上に1024×768個の点を表示することができます。

ドライブレター

FDD、HDDやCD-ROMドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。基本的にHDDが1基搭載されている場合は、「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」がCD-ROMドライブに割り当てられます。

内部キャッシュ

CPUから周辺チップへアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリ。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

使用例 PCIバス、AGPバス

パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

使用例 パラメータを設定します。

ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)ものがあります。

ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

使用例 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

ブラウザ

インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットエスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。

拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能です。

プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

ボリュームラベル

HDDやFDにつけた名称のことです。

メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことです。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

使用例 メインメモリは128MBです。

メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

リソース

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

類義語 システム資源

ログオン

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

類義語 ログイン/ログアウト

論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

ワイヤレスLAN

ネットワークケーブルを使わずに、電波などの無線で通信を行うLANのことです。

索引

英数字

2HD(FDD)	40
2DD(FDD)	40
3.5型フロッピーディスクドライブ	9, 40

A

Adobe Acrobat Reader	5
~のインストール	137
ADSL	64
AP	86
ATコマンド	170

B

BIOS	105
------------	-----

C

CapsLock	37
CardBus	48
CD-ROM	45
CD-ROMドライブ	7, 45
~の不具合	152
CD-ROMドライブのアクセスランプ	7
CMOS RAMの初期化	167
COAラベル	3

D

DIMM (メモリ)	96
~の不具合	154

E

ESS-ID	88
--------------	----

F

FAXモデム	61
~ボードの取り外し	172

~の不具合	157
ATコマンド	170
インターネットに接続する	63

FD (フロッピーディスク)	40
FDD (フロッピーディスクドライブ)	9, 40
~の不具合	150
Fnキー	38

H

HDD (ハードディスクドライブ)	44
~の不具合	151
~の領域の変更	127
HDDアクセスランプ	7

I

IEEE1394	8, 92
ISDN	64
Internet Explorer	73

L

LAN	84
LCD画面	52
~のお手入れ	162
~の設定	134
~の不具合	148
LCDユニット	7

M

MACアドレス	88
MS-IME	36

N

Norton AntiVirus2002	5, 93
~のインストール	137
NTFS	44, 126
NumLock	37

O	
Outlook Express	73
P	
Passwordの設定	115
PBX	61
PCカード	48
~の不具合	154
PCカードスロット	8
PCカードイジェクトボタン	8
S	
Scroll Lock	37
SXGA	4, 52
U	
USB	91
USB2.0	91
USBコネクタ	8, 103
V	
VGAコネクタ	9, 53, 103
W	
Wake on Ring	62
WEPキー	88
Windows XP	
~のインストール	130
~のセットアップ	22
Windows 2000	
~のインストール	128
~のセットアップ	20

50音順

あ	
アイコン	(10), (11)
アウトLOOKエクスプレス	73
い	
インストール時の不具合	156
インターネットに接続	63
インターネットエクスプローラ	73
インタラクティブトレーニング	28, 139
う	
ウィルス	93
お	
お気に入り（ホームページ）	76
お手入れ	162
お問い合わせ情報	3
音量の調節	27, 60
か	
解像度の変更	56
かな入力	36
き	
キーボード	35
~コネクタ	9
~の接続	12
~を収納する	39
~不具合	145
キーボードストレージ	7
キーロック表示ランプ	37
輝度調節ダイヤル	8
機能キー	35
機能仕様一覧	174

休止状態	80, 81	セットアップ	
強制取り出し (CD-ROMドライブ)	47	Windows 2000インストールモデル	20
		Windows XPインストールモデル	22
く		そ	
クリック	34	外付けディスプレイ	53
け		た	
警告メッセージ	160	ダイヤルアップ接続	67
こ		タスクバー	(10), (11)
コンピュータウイルス	93	タブ	(10), (11)
		ダブルクリック	34
さ		ち	
再インストール	122	直接入力モード	36
サウンド機能	59		
し		て	
システムの拡張	95	ディスクの管理	138
シリアルコネクタ	9, 91, 103	ディスプレイ	52
仕様	174	~の接続 (外付け)	53
省電力機能	79	~の不具合 (LCD)	148
~の不具合	145	デスクトップ	(10), (11)
す		デバイスドライバのインストール	132
数値キー	35	デュアルディスプレイ機能	55
スクロール	34	電源コードの接続	15
スタンバイ	80	電源コネクタ	8
スピーカ	7	電源スイッチ	7
~の不具合	155	電源の入れ方	19
スリムドライブ	7	電源の切り方	29
		電源ランプ表示	28, 80
せ		添付ソフトウェア	5
セーフモード	149	電話回線	61
セカンダリ	54	~への接続	14
セキュリティロックスロット	8		

と

ドライバCD	5, 124
ドラッグアンドドロップ	34

な

内蔵ステレオスピーカ	7
------------------	---

に

日本語入力	36
-------------	----

ね

ネットワーク	84
~の接続	13
ネットワークコネクタ	8, 84, 103

は

背面カバーの取り外し・取り付け	98
ハードディスクドライブ (HDD)	44
~の不具合	151
~の領域の変更	127
パスワード	115
~の初期化	167
バックアップディスクの作成	24
パラレルコネクタ	9, 91, 103
ハングアップ	31

ひ

表示色の変更	56
表示装置	52

ふ

プライマリ	54
プリンタの不具合	155
フロッピーディスクドライブ (FDD)	9, 40
フロッピーディスク (FD)	40
プロバイダ	65

へ

ベースユニット	7
ヘッドフォン出力コネクタ	8, 59

ほ

ボタン	(10), (11)
ボリューム調節ダイヤル	8, 59

ま

マイク入力コネクタ	8, 59
マウス	34
~コネクタ	9
~ドライバのインストール	136
~のお手入れ	162
~の接続	12
~の不具合	147
マニュアルディスク	6, 25

め

メールの送受信	78
メモリ (DIMM)	96
~の不具合	154

も

文字を入力するには	36
モデム	61
モデムコネクタ	8, 103

ら

ライトプロテクト (FD)	43
ライン入力コネクタ	8, 59

り

リカバリCD 5, 124

リセット 31

リチウム電池の交換 164

リモートブート 85

ろ

ローマ字入力 36

わ

ワイヤレスLAN 86

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

インテル、Pentium、Celeronはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe、Acrobat、およびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標（地域によっては登録商標）です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

エプソン販売株式会社



大豆油インキを使用しています。



このユーザーズマニュアルは古紙配合率100%再生紙を使用しています。



C77229000 02.10-05.05(SO)